

monami

Prime

使用の手びき

型式：TC-700



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「使用の手びき」をご使用の前に必ず
お読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末長く
ご活用ください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、模様ぬいや文字ぬい、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

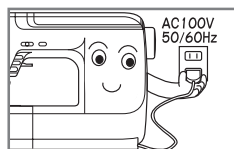


このマークは、禁止を表します。



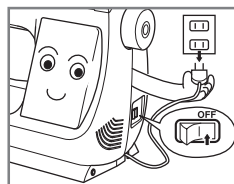
警告 感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100V以外では使用しないでください。



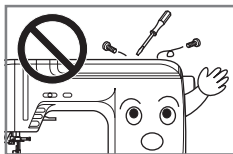
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。

- ・ ミシンのそばを離れるとき。
- ・ ミシンを使用したあと。
- ・ ミシン使用中に停電したとき。

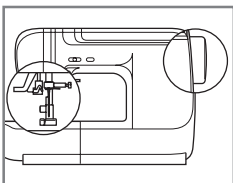


注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

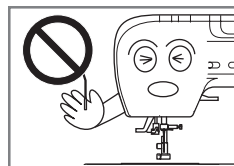
1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。



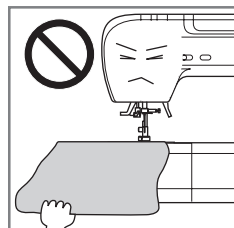
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ハズミ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。



3. 曲がった針はご使用にならないでください。



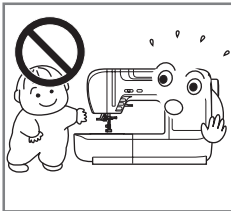
4. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。



安全にご使用いただくために

注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

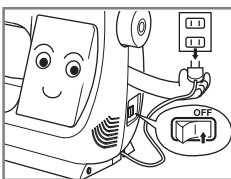
5. お子様がご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。



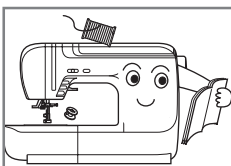
6. フットコントローラーの上に物をのせないでください。



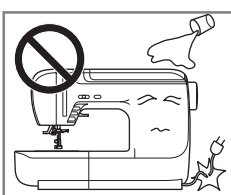
7. 使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。



8. 上糸、下糸の交換をするときは、使用の手びきの手順に従って正しく行ってください。

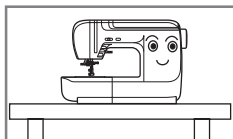


9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。

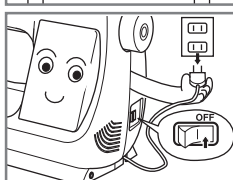


- ・ 正常に作動しないとき。
- ・ 落下などにより破損したとき。
- ・ 水に濡れたとき。
- ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・ 異常な臭い、音がするとき。
- ・ 中に異物が入ったとき

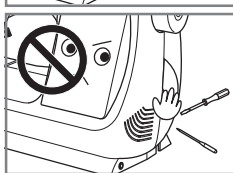
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。



11. 電源プラグを抜くときは、電源スイッチを切り、プラグを持って引き抜いてください。



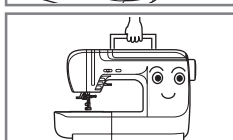
12. 通気口やスキマに異物を入れたり、ドライバーを差し込んだりしないでください。



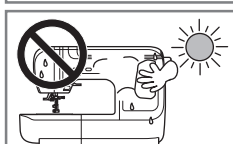
13. ミシンの通気口をふさがないでください。



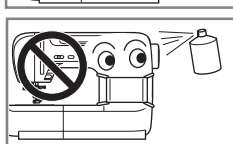
14. ミシンを持ち運ぶときは、必ずハンドルを持ってください。



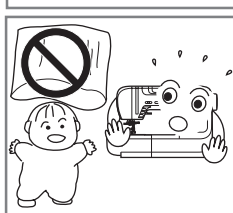
15. 直射日光に当たったり、高温多湿のところに置かないでください。



16. スプレー製品などを使った部屋では使用しないでください。

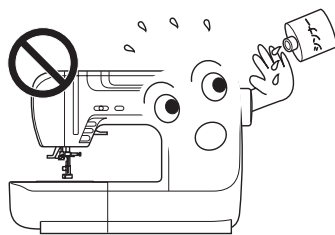


17. 袋類は、お子様がかぶらないように、お子様の手の届かないところに保管するか、廃棄してください。

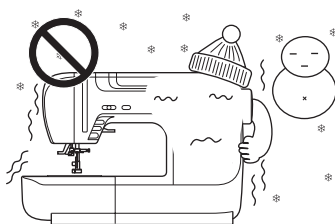


ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。
案内窓は、きれいなやわらかい布でかるくふいてください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動ようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



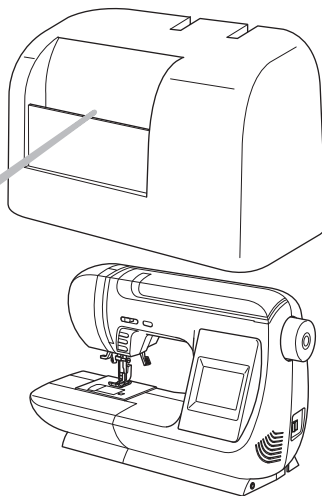
シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。

ミシンカバーの中にある緩衝材は取り外さないでください。

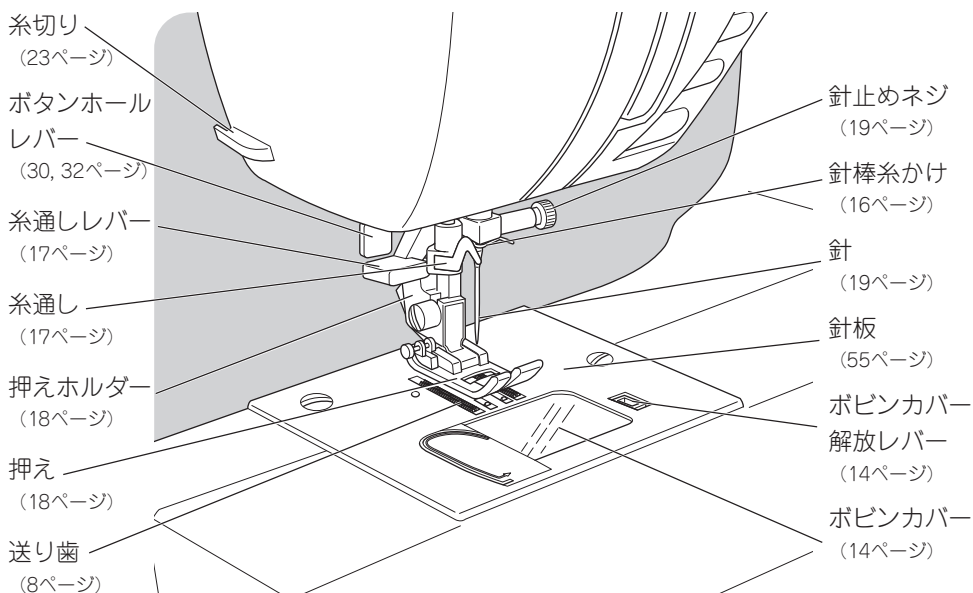
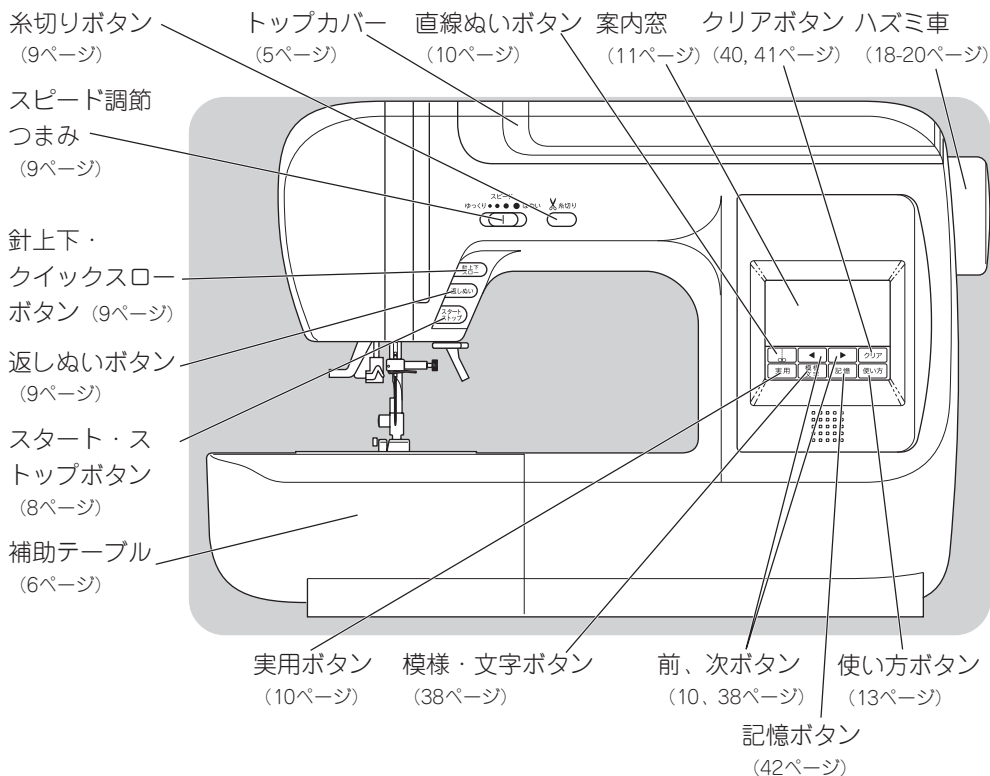
ミシンカバーには、この
手びきが収納できます。



目次

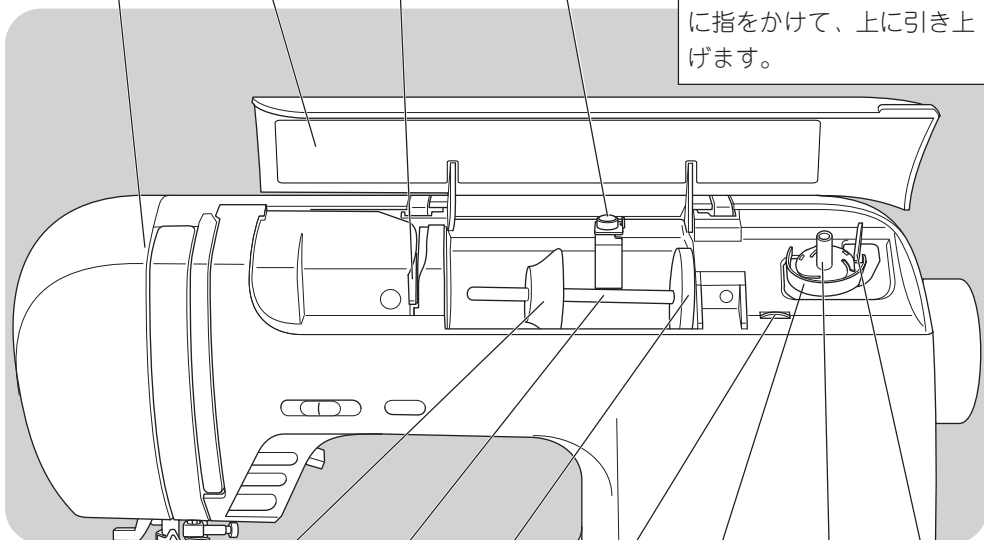
安全にご使用いただくために	表紙裏	まつりぬい（ブラインドステッチ）	29
ミシンの取り扱い	2	ボタンホールぬい	30
ミシンカバー	2	かん止め・つくろいぬい	32
各部のなまえ	4	アイレット（はと目穴）	33
付属品・補助テーブル	6	ファスナー付け（つき合わせ・脇あき） ...	34
電源を入れましょう	7	つき合わせ	34
フットコントローラー	7	脇あき	35
各部のはたらき	8	パッチワーク	36
ぬい模様の選び方（実用ぬい）	10	アップリケ	36
自動糸調子	12	スカラップ ステッチ	37
使い方ボタン・音の設定	13	飾りぬい	37
下糸の準備	14	模様・文字ぬい	38
ボビンの取り出し方	14	模様・文字の選び方	38
下糸の巻き方	14	模様・文字一覧	39
ボビンのセット	15	模様・文字の確認	40
上糸の準備	16	模様・文字の削除	41
上糸のかけ方	16	模様・文字の記憶	42
糸通しの使い方	17	模様・文字のぬい方	43
押えと押えホルダーの取りかえ方	18	ぬい状態表示機能	44
押えの取りかえ方	18	選び方とぬい方の例	46
押えホルダーの外し方	18	フリーアームぬい	48
糸と針の選び方	19	大型テーブルの取り付け方	48
針の取りかえ方	19	ぬい目の形の調整	49
ぬってみましょう	20	キルティング押えのご案内（別売り品） ..	50
ぬい始め～ぬい終わり	20	キルティング押えの取り付け方	50
返しぬい	21	ぬい方（曲線ぬい）	50
自動止めぬい、自動糸切り	21	上送り押えのご案内（別売り品）	51
ぬい方向の変え方	22	上送り押えの取り付け方	51
厚地のぬい始め	22	ぬい方	51
段ぬい	23	お知らせメッセージ	52
糸切りボタンを使わないとき	23	こんなときには	53
下糸を長くにとってぬい始めたいとき	23	ミシンのお手入れ	54
直線ぬい（地ぬい）	24	ミシン表面、ミシンカバーの掃除	54
自動返しぬい付直線ぬい	24	送り歯の掃除	54
伸縮ぬい	25	外がまとボビンケースの掃除	55
ジグザグぬい	25	ぬい模様一覧	56
伸縮強化ぬい	26	ミシンの仕様	58
手ぬい風キルトステッチ	26	修理サービス要領	59
点線ジグザグぬい（つくろいぬい）	27	お問い合わせまたはご相談先	
ピンタック	27	（純正部品の購入方法）	60
ふちかがりぬい（たち目かがり）	28	保証書	裏表紙

各部のなまえ

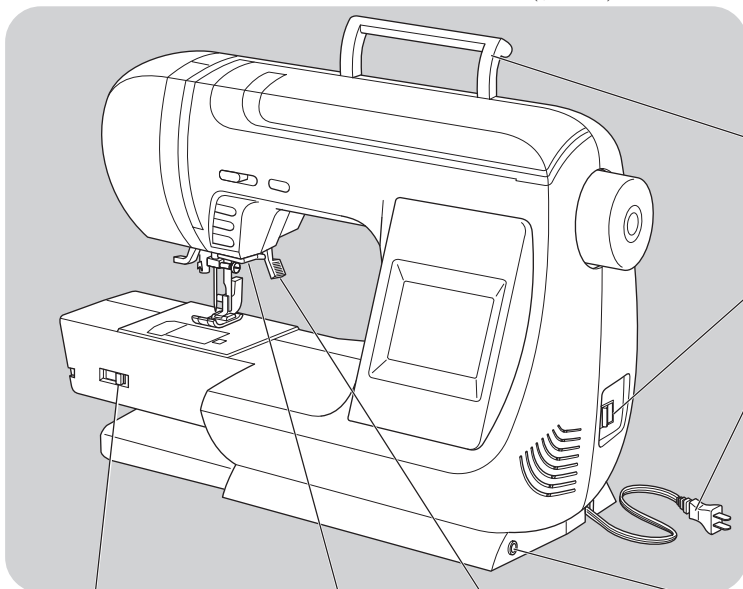


天びん（内部）ぬい模様一覧表
（16ページ）
糸かけ
（14, 16ページ）
糸巻き案内
（14ページ）

●トップカバーのあけ方
トップカバー右側の指かけ
に指をかけて、上に引き上
げます。



糸巻き押え
（14, 16ページ）
糸立て棒
（14, 16ページ）
フェルト
（14, 16ページ）
ボビン受け
（15ページ）
糸巻き軸
（14ページ）
輝度調節ダイヤル
（7ページ）
糸巻きストッパー
（15ページ）



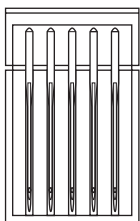
ドロップフィードレバー
（8ページ）
糸通し糸切り
（17ページ）
押え上げレバー
（8ページ）

ハンドル
（1ページ）
電源スイッチ
（7ページ）
電源プラグ・コード
（7ページ）
フットコントローラー
差し込み口（7ページ）

付属品・補助テーブル

●付属品

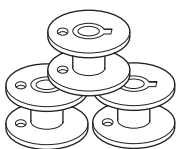
付属品は補助テーブルの中に入っています。



針ケース（5本入り）

11番、14番、16番

ニット針（黄色）11番、14番



ボビン



ブラシ



ドライバー



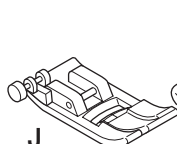
シーム
リッパー



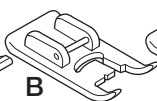
針板用
ドライバー

●押え

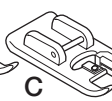
押えには、わかりやすいようにそれぞれ記号がついています。



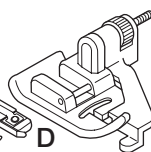
J
ジグザグ押え
（ミシンについて
います）



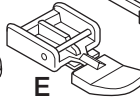
B
サテン
押え



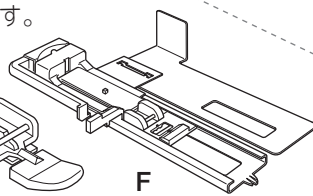
C
ふちかがり
押え



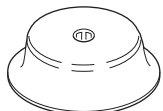
D
まつりぬい
（フラインド）
押え



E
ファスナー
押え



F
ボタンホール押え
（アンダープレート付）



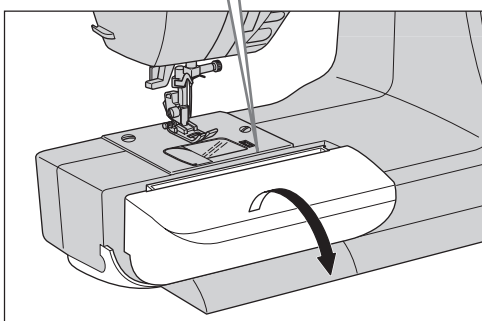
糸巻き押え
（ミシンについています）

お知らせ

このミシンには、
大型テーブルが付
属しています。
（48ページ参照）

●補助テーブルの開け方

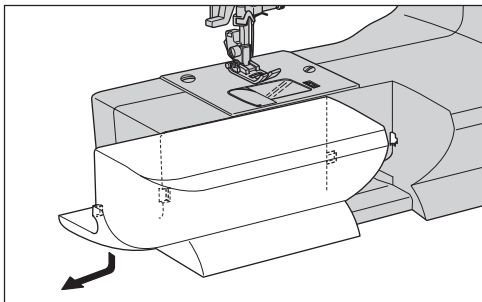
テーブル手前の角に指をかけ、手前に倒します。



●補助テーブルの取り外し方

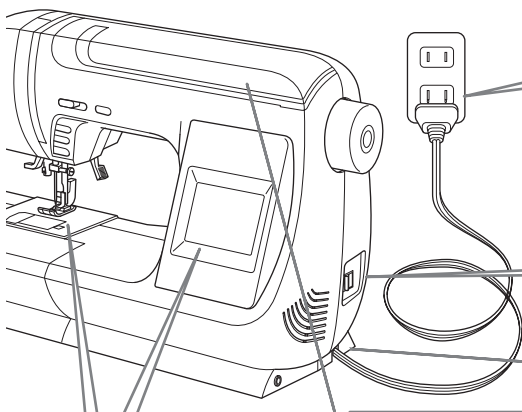
テーブルの左下に指をかけて、左に引きま
す。

取り付けは、テーブルのツメがミシンに入る
ように合わせ、右にすべり込ませます。



電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。



- ①** 電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ 警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。
黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

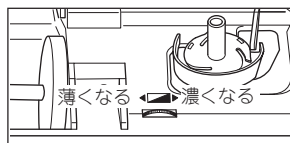
- ②** 電源スイッチを入れます。



- コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

- ③** 電源を入れると、ランプが点灯し、案内窓に地ぬい（中）が表示されます。

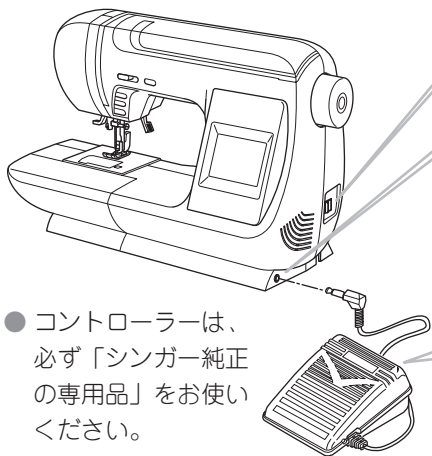
- **案内窓が見づらいときは**
トップカバーをあけて、中にある輝度調節ダイヤルを左右に回して、濃さを調節します。



フットコントローラー

フットコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。

コントローラーを接続するとスタート・ストップボタン（次ページ参照）はきかなくなります。



- コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。

- ①** 電源スイッチを切ります。



- ②** コントローラーのプラグをミシンの差し込み口に差し込みます。

- ③** コントローラーを足元に置き、電源を入れなおします。



ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。

ペダルをはなすとストップします。

スピード調節つまみ（9ページ参照）は、最高スピードを調節します。速くしたいときは、右にセットしてください。押えを下げないとスタートしません。（次ページ参照）

⚠ 警告；感電、火災を防ぐために；

コントローラーは、落としたり、座ブタの下において使用しないで下さい。

⚠ 注意：ケガ防止のために；

コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行って下さい。

各部のはたらき

●スタート・ストップボタン

1度押すとスタートし、もう1度押すとストップします。

ぬい始めはゆっくり回ります。

●お知らせランプ

緑..ぬいや下糸巻きの準備OK

赤..ぬい模様が選ばれていないとき、押えやボタンホールレバーが下りていないときは、赤く点灯し、スタートしません。

●押え上げレバー

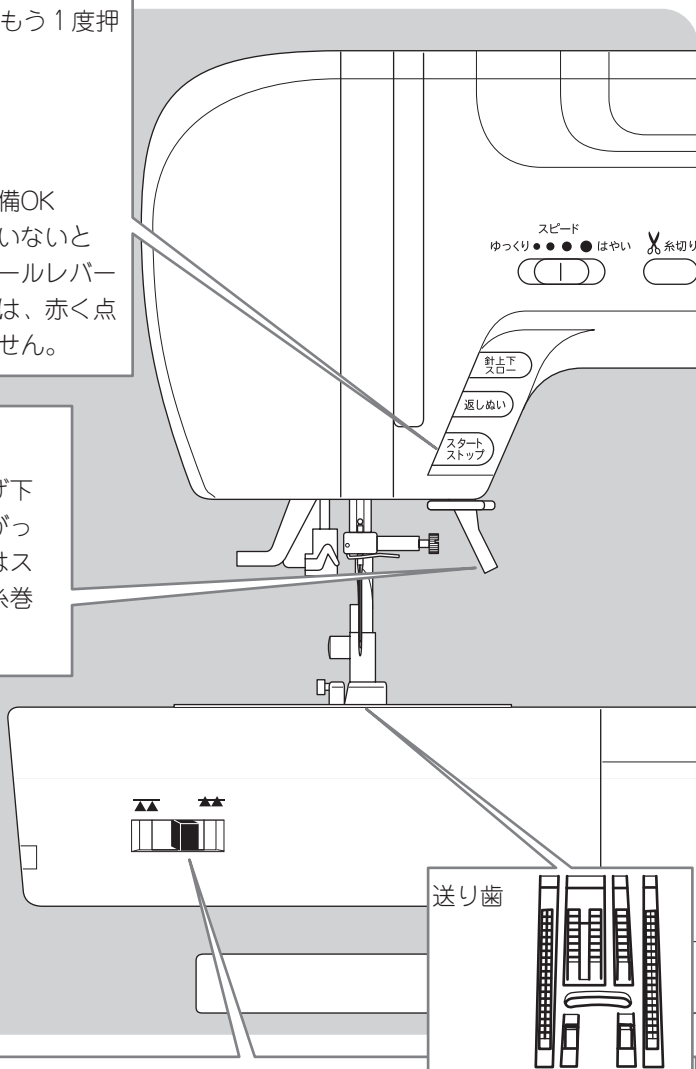
このレバーで押えの上げ下げをします。押えが上がっているときは、ミシンはスタートしません。（下糸巻きを除く）

●ドロップフィードレバー

このレバーで送り歯の上げ下げをします。

レバーを右にすると、送り歯が針板の上に出てきて、布を送ります。通常は、この位置にしておきます。

レバーを左にすると、送り歯が針板より下がり、布を送りません。キルティング押え（別売り品：50ページ参照）を使って曲線ぬいをするときなど、布を手で操作するときには、この位置にします。



●スピード調節つまみ

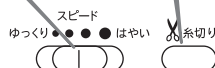
右にスライドさせると速く、
左にスライドさせるとゆっくり
になります。

●糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタンを押すと、上糸と下糸を
同時に切ります。

***番手が30番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切
りボタンを使わないでください。**

これらの糸を切る場合には、ミシン左側の糸切りをお使いくださ
い。（23ページ参照）



●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返
しぬいを低速でぬいます。離す
と止まります。

コントローラー接続の場合は、ペダルも
踏みます。ボタンを離すと正送りになり
ます。

●針上下・クイックスローボタン

止まっているとき：針上下ボタン

ミシンが止まっているときにこのボタンを押す
と、針の位置が上下に切りかわります。

上位置から続けて2回押すと1針ぬいになります。

ぬっているとき：クイックスローボタン

ぬいの途中で1度押すと、ゆっくりぬいになりま
す。もう1度押すと、もとのぬいスピードに戻り
ます。

ぬい模様の選び方（実用ぬい）

このミシンでぬえるぬい模様が、トップカバーの内側と、この手びきの56ページ「ぬい模様一覧」に表示してあります。ぬい模様は、いろいろな用途に使われる実用ぬいと、組み合わせで装飾的なぬいに用いる模様・文字ぬいに分けられています。

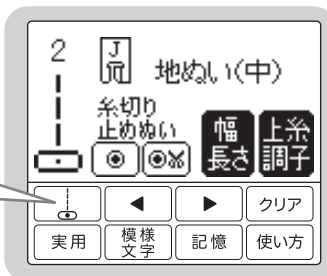
ここでは、実用ぬいの選び方について説明します。

模様・文字ぬいの選び方は、38ページをご覧ください。

●直線ぬいボタン

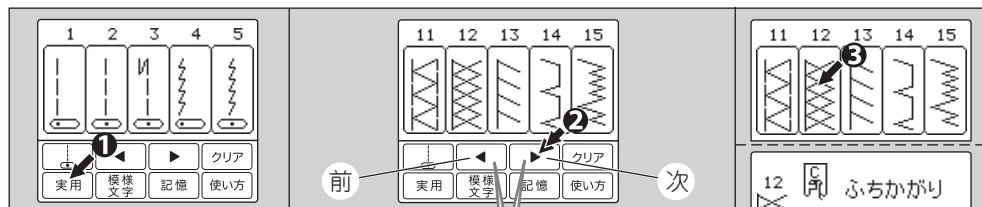
このボタンを押せば、いつでも直線ぬい（地ぬい・中）を選ぶことができます。

電源スイッチを入れたときも、この模様を選ばれます。



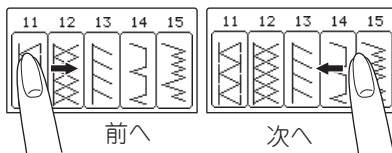
●実用ぬいの選び方

- ① 実用ボタンを押します。
実用ぬいの5つの模様が表示されます。
- ② 次▶ボタンを押すごとに次の5つの模様が、前◀ボタンを押すごとに前の5つの模様が順番に表示されます。
ぬいたい模様が表示されるまで、ボタンを押します。
- ③ ぬいたい模様を直接押します。
選んだ模様が表示されます。



前、次ボタンを押す代わりに、案内窓を押さながら、指を左に移動すると次の模様を、右に移動すると前の模様を表示させることもできます。

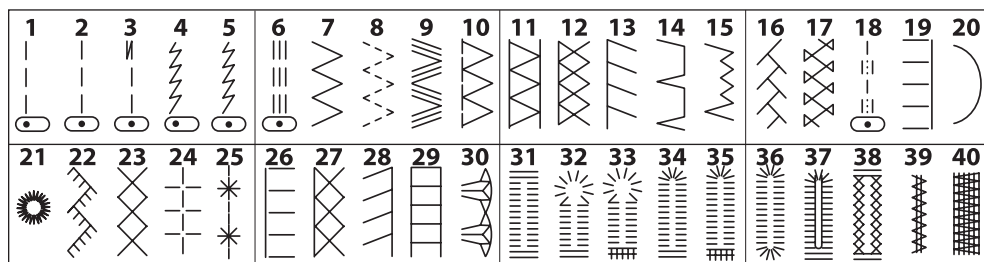
指をすばやく動かすと高速で移動します。
実用ボタンを続けて押しても次の5つの模様が表示されます。



●ご注意：

案内窓は、あまり強く押さないでください。
また、とがった物で操作しないでください。
故障の原因となります。

●実用ぬい一覧



●案内窓

実用ぬいを選ぶと、案内窓には、次の内容が表示されます。（模様案内画面）

- 選んだぬい模様と番号
- ぬい模様に適した押えの記号（押えには、それぞれ記号がついています。）
- 選んだぬい模様の主な用途

ふちかがりぬいやファスナー付けなど、表示以外の押えや用途もあります。（28、34ページ参照）

- 自動止めぬい、自動糸切りボタン（21ページ参照）
- ジグザグのふり幅、ぬい目長さの調節画面への切り替えボタン（下記参照）
- 上糸調子調節画面への切り替えボタン（次ページ参照）



●ジグザグのふり幅とぬい目長さの調節

模様を選ぶとジグザグのふり幅とぬい目長さは、その模様
に最適な幅と長さに自動設定されます。

手で調節したいときは、幅・長さボタンを押して、幅・
長さ調節画面にします。

（自動設定値のとき、ボタンが白黒反転しています。）

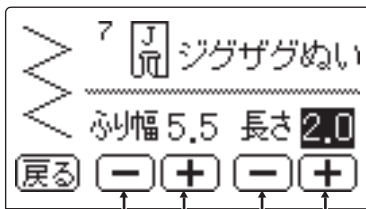


幅・長さ調節画面

ジグザグのふり幅



せまくなる ひろくなる



ぬい目長さ



こまくなる あらかくなる

- 自動設定値は、白黒反転して表示されます。

- 最大値、最小値になると音が変わります。

（模様によって最大値、最小値は、異なります。また、表示のないものや、幅・長さ調節画面にならない模様は、自動設定値から変えられません。）

- 幅・長さ調節画面のままでもぬいをスタートさせることができます。

- 「戻る」ボタンを押すと、模様案内画面に戻ります。

（幅、長さが変更されると、幅・長さボタンは、白黒反転表示ではなくなります。）

- 直線ぬい（模様1, 2, 3, 6, 18）の場合は、ふり幅のかわりに、ぬう時の針の左右位置を変えることができます。

数値	0 - 3.5 - 7.0
針位置	左 中央 右



左に移動 右に移動

自動糸調子

このミシンは、上糸調子を模様に合わせて自動設定値に調節します。

上糸調子を変えてぬいたいときは、上糸調子ボタンを押して、上糸調子調節画面にします。

(自動設定値のとき、ボタンが白黒反転しています。)



上糸調子調節画面



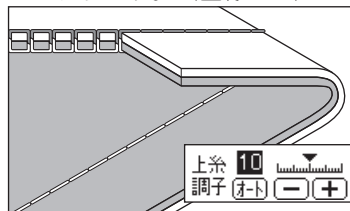
自動設定値
に戻る

弱くなる 強くなる

- 自動設定値は、白黒反転して表示されます。
- 上糸調子調節画面のままでぬいをスタートさせることができます。
- 「戻る」ボタンを押すと模様案内画面に戻ります。
(上糸調子を変えると、上糸調子ボタンは、白黒反転表示ではありません。)
- 模様を選び直すと自動設定値に戻ります。

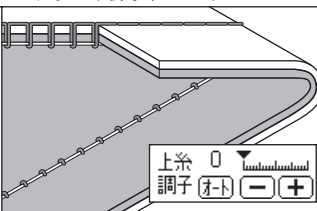
自動設定値 (オート)

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。(直線ぬい)



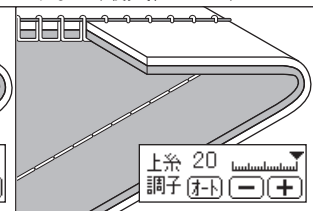
上糸が弱いぬい目 (一)

布地の裏側に上糸が出てきます。(最小値：0)



上糸が強いぬい目 (十)

布地の表側に下糸が出てきます。(最大値：20)



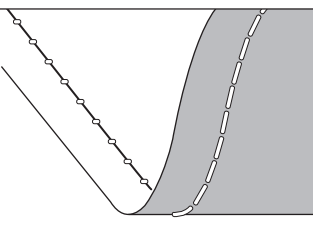
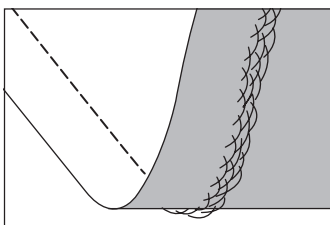
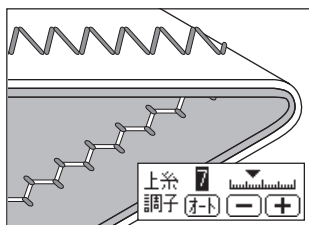
●直線ぬい以外の自動設定値

直線ぬい以外の自動設定値は、直線ぬいするときより上糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るように調節されます。

●こんな場合は…

図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようになるときは、上糸の通し方が違ってきます。16ページをご覧ください。

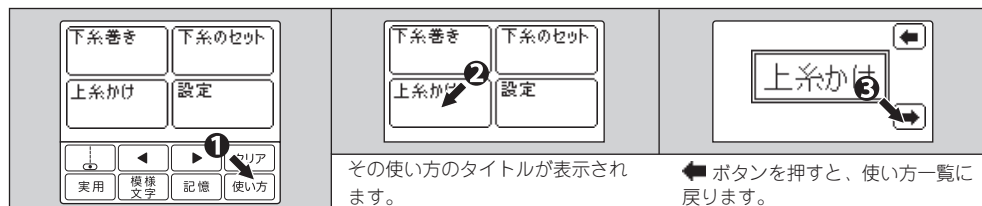
また、上糸調子が自動設定値になっているのに、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンのセットの仕方がちがっています。15ページをごらんの上、正しくセットしてください。



使い方ボタン・音の設定

使い方ボタンを押すと、このミシンの「下糸巻き、下糸（بوبين）のセット、上糸かけ」の説明を案内窓で知ることができます。また、操作音や、音声ガイドの音量設定をすることもできます。

- ① 使い方ボタンを押します。
- ② 知りたい使い方のボタンを押します。
- ③ ➡ ボタンを押すと、最初の操作を説明します。



使い方一覧が表示されます。

- ④ ➡ ボタンを押すごとに次の操作を説明します。
(次の操作がないときは、使い方一覧に戻ります。)
- ↺ ボタンを押すと、その操作をもう一度説明します。
- ⬅ ボタンを押すと前の操作を説明します。
(前の操作がないときは、使い方一覧に戻ります。)

- ⑤ 使い方ボタンをもう一度押すと、一覧画面に戻り、さらにもう一度押すと、ボタンを押す前の画面に戻ります。

お知らせ：

使い方を見ながら、その操作をすることができます。

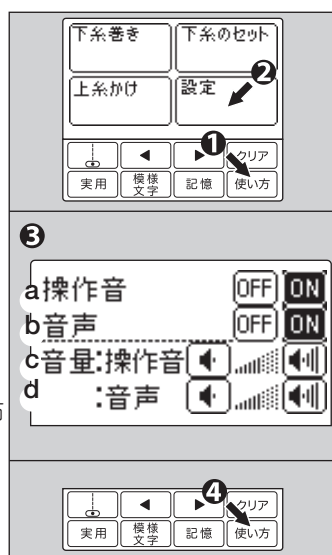
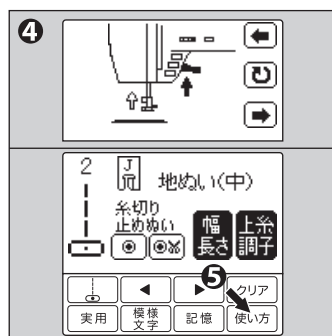
●音の設定

- ① 使い方ボタンを押します。
- ② 設定ボタンを押します。
- ③ 次の4つの設定ができます。
 - a. 操作ボタンを押したときの、操作音の入切
 - b. 音声ガイドの入切
 - c. 操作ボタンを押したときの、操作音量の調整
 - d. 音声ガイドの音量調整
 それぞれONボタンを押すと、音がでます。OFFボタンを押すと、音がでません。

- ④ 使い方ボタンをもう一度押すと、一覧画面に戻り、さらにもう一度押すと、ボタンを押す前の画面に戻ります。

● 設定は、電源スイッチを切っても記憶されています。

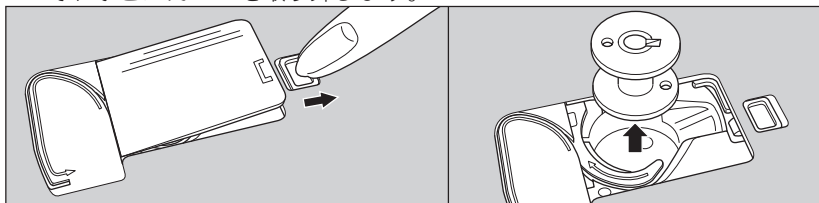
● 安全のため、誤った操作をしたときの警告音は、消すことができません。



下糸の準備

■ボビンの取り出し方

- ① ボビンカバー解放レバーを右に押し、ボビンカバーを取り外します。
- ② ボビンを取り出します。

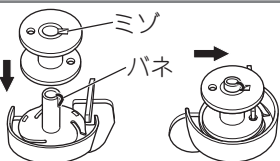


お願い：
ボビンは、
専用のもの
をお使いく
ださい。

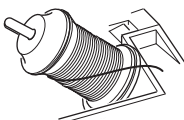
■下糸の巻き方

- ① トップカバーをあけます。

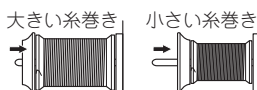
- ② ボビンのミゾが、糸巻き軸のバネに合うように、ボビンを軸に差し込み、右に押しします。



- ③ 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。



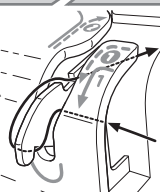
糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。



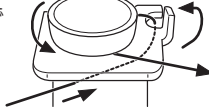
- ④ 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。



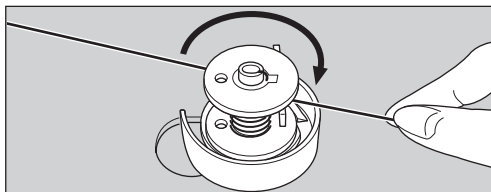
- ⑤ 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。



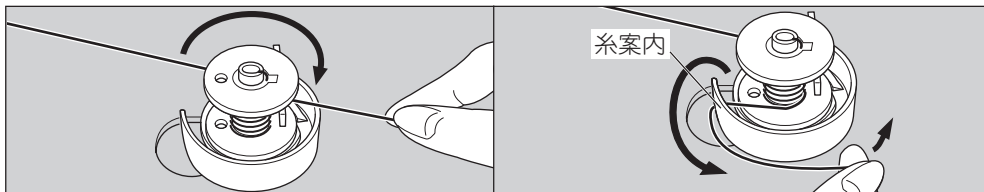
- ⑥ 糸を右に引いて、糸巻き案内の下からかけ、案内皿の間に後ろから左回りでかけます。



- 7** 糸がたるまないようにしながら、ポビンに右回りに4、5回、巻き付けます。



- 8** ポビン受けの糸案内にかけ、左回りに糸を引き、糸切りで切ります。



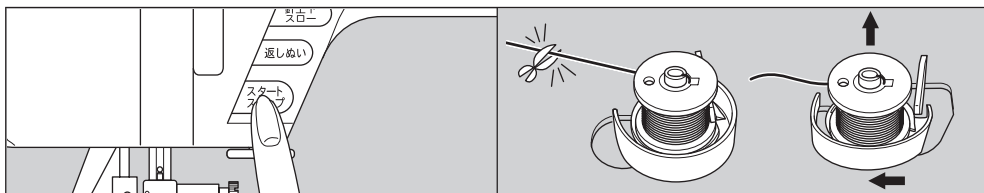
左回りに引くだけで、糸が糸切りにかかり切れます。

- 9** スタートボタンを押します。



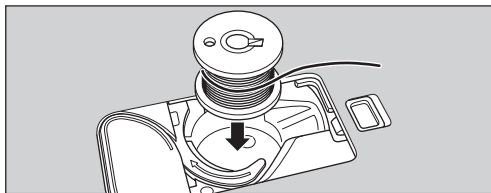
糸がいっぱいになると、自動的にストップします。

- 10** 巻き終わったら、糸を切り、糸巻き軸を左に戻して、ポビンを外します。



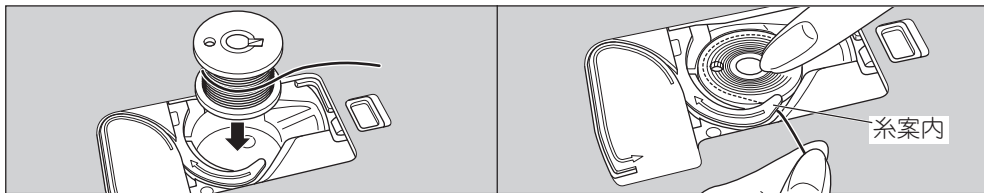
■ボビンのセット

- 1** ボビンを、糸が左回りになるようにして、ポビンケースに入れます。

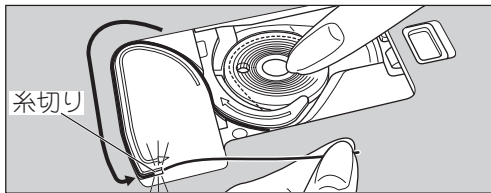


糸の方向を間違えないように注意してください。

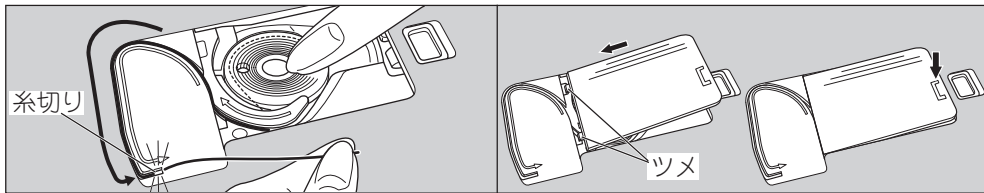
- 2** 右手で、ポビンをかかしく押え、左手で、糸を糸案内に引っかけます。



- 3** みぞに沿って、上から下に通し、右に引いて、糸切りで切ります。



- 4** ボビンカバー左側のツメをみぞに差し込み、右側を軽く押して取り付けます。



●お知らせ：

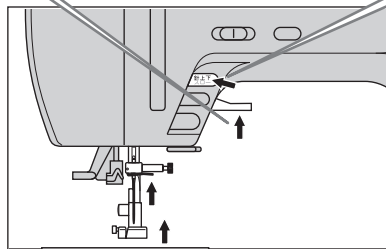
このミシンは、下糸を引き上げなくても、このままでぬい始めることができます。
もし、下糸を引き上げてぬきたいときは、23ページを参照してください。

上糸の準備

■上糸のかけ方

順序よく、正しくかけてください。

1 押え上げレバーを上げます。



2 針上下ボタンで針を上に出します。

3 トップカバーをあけます。

4 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。フェルトを必ずセットしてください。

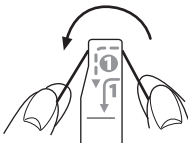
糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。

大きい糸巻き 小さい糸巻き

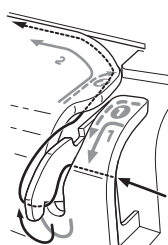


5 ミシンに表示してある 1～6 の順番で糸をかけます。

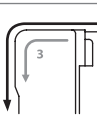
1. 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。



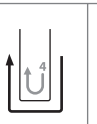
2. 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。



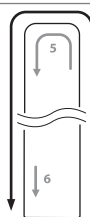
3. 糸を左に引き、矢印にそって手前におろします。



4. 右から左にかけ、上に引き上げます。

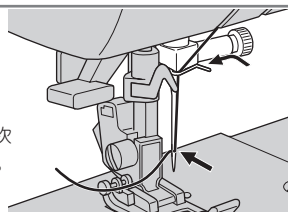


5,6. 矢印にそって右から左にかけ、下におろしてきます。(中の天びんに糸がかかります。)



6 針棒糸かけにかけ、針穴に前から通します。

糸通しを使う場合は、次ページを参照ください。



■糸通しの使い方

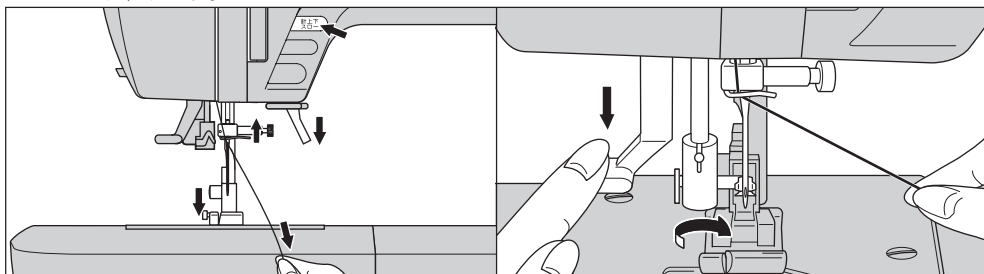
糸通しは、11～16番の針、
50～100番の糸に使えます。

⚠注意：ケガ防止のために；

針の下に指を入れないでください。ケガの原因となります。
糸通しレバーを下げたとき、ハズミ車は回さないでください。
ケガや故障の原因となります。

- ①** 糸を針棒系かけから補助テーブル手前
くらいまで引き出して、押え上げレ
バーを下げます。

- ②** 糸通しレバーを下げて、止めます。
レバーは、下がったまま止まります。



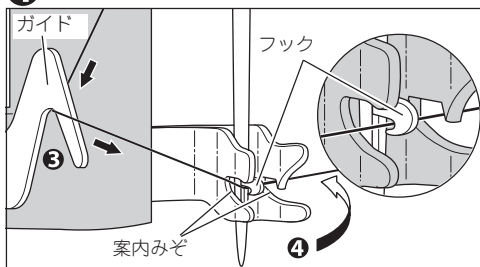
針が上位置にないときは、針上下ボタンで上に上げます。

糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

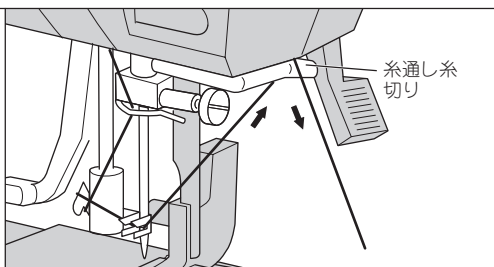
- ③** 糸を糸通しのガイドにかけて、右に
ひいてきます。

- ⑤** 糸を糸通し糸切りに後ろから手前にか
けて切ります。

- ④** 糸を案内みぞに入れます。



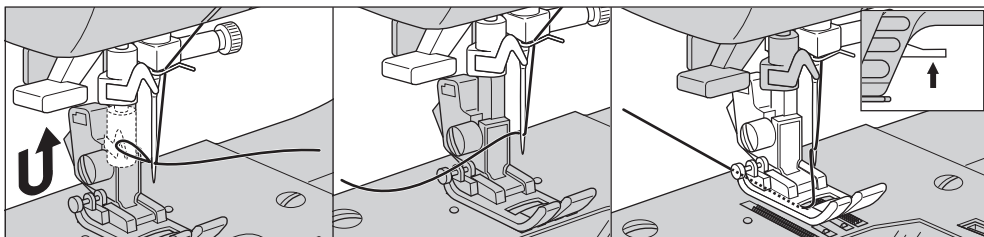
糸がフックに引っかかります。



- ⑥** 糸通しレバーをもう一度
押し下げて、離します。

- ⑦** 糸はしを引き
出します。

- ⑧** 押えを上げ、上糸を押えの下
から10cmくらい後ろへ出し
ておきます。



糸通しが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

押えと押えホルダーの取りかえ方



注意：ケガ防止のために；

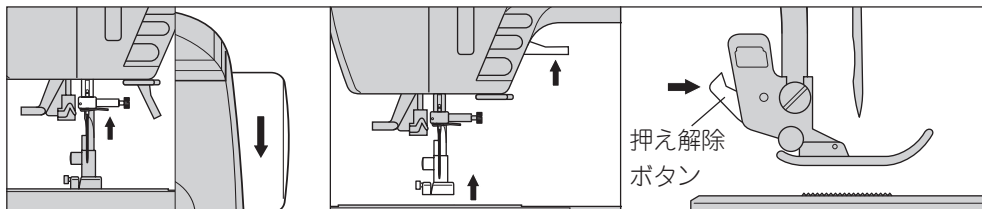
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



■ 押えの取りかえ方

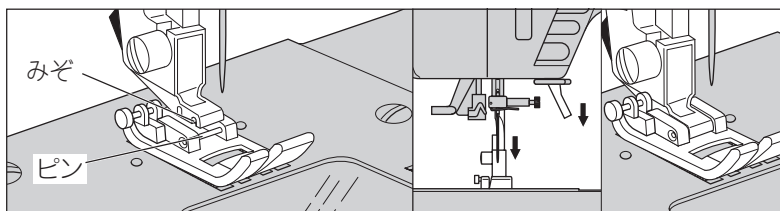
押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが24ページ以降に示してあります。

- ① ハズミ車を手前に回して、
- ② 押え上げレバーを針を一番上に上げます。
- ③ 押え解除ボタンを押します。



押えが外れます。

- ④ 交換する押えのピンを押えホルダーのみぞの真下に合わせます。
- ⑤ 押え上げレバーを下げます。



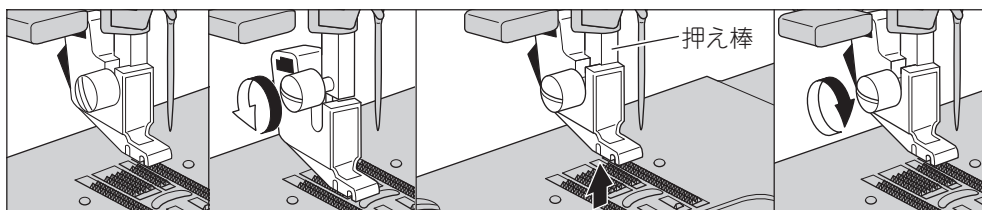
ピンがみぞにはまります。

もし、完全にはまらないときは、押え解除ボタンを押してみてください。

■ 押えホルダーの外し方

お手入れをするときや、キルティング押え、上送り押え（別売り品：50、51ページ参照）を取り付けるときは、押えホルダーを外します。

- ① 押えを外します。
- ② 押えホルダー止ネジをゆるめます。
- ③ 取り付けるときは、ホルダーを押え棒の下から突き当てるまで持ち上げます。
- ④ ネジをしめます。



前項「押えの取りかえ方」参照

ホルダーが外れます。

糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類	糸の番号 (番手)	針の番号	模様 (直線) とぬい目長さ
薄地	綿 80～100 絹 60～80 化繊糸 80～100	9～11番	 ぬい目長さ 1.0～2.5
普通地	綿 50～80 絹 50 化繊糸 50～80	11～14番	 ぬい目長さ 2.0～3.0
厚地	綿 30～50 絹 50 化繊糸 30～60	14～16番	 ぬい目長さ 2.0～4.0
伸縮性の布地	化繊糸 50～80 絹 50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	

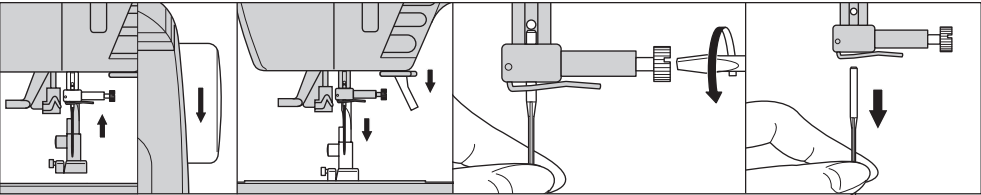
針の取りかえ方

**注意：ケガ防止のために；**
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

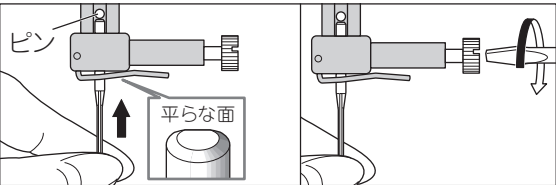


針板の上に紙や布を置いておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

- ① ハズミ車を手前に回して、針を一番上に上げます。
- ② 押え上げレバーを下げます。
- ③ 針を左手で持ちながら、付属のドライバーで針止めネジをゆるめます。
- ④ 針をはずします。



- ⑤ 新しい針の平らな面を後ろにして、ピンにあたるまで差し込みます。
- ⑥ 付属のドライバーでネジをしっかりとしめます。

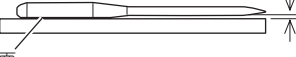


注意：市販の大きなドライバーなどであまり強くしめつけないでください。故障の原因となります。

**注意：ケガ防止のために；**

- 針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
- 曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取り付け前には、針の平らな面を下にして針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



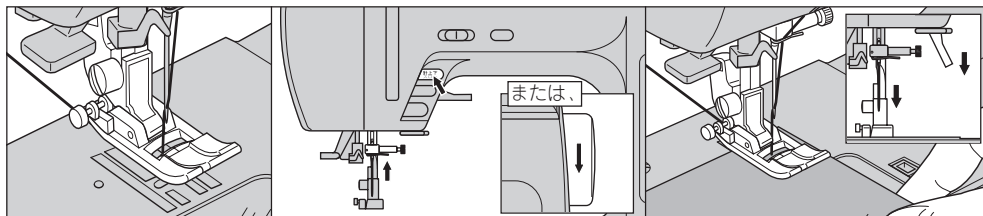
平らな面

ぬってみましょう

電源を入れると、地ぬい（中）²が選ばれます。

■ぬい始め～ぬい終わり

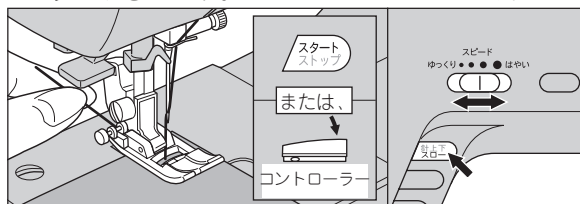
- ① 押えを確かめます。（ジグザグ押え）
- ② 針上下ボタンを押すか、ハズミ車を手前に回して、針を上上げます。
- ③ 布地を入れ、押えを下げます。



押えの取りかえ方は18ページ

お知らせランプが緑色になります。

- ④ 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- ぬいながらスピードを調節できます。また、ぬいの途中で針上下・クイックスローボタンを押すとゆっくりぬいになります。

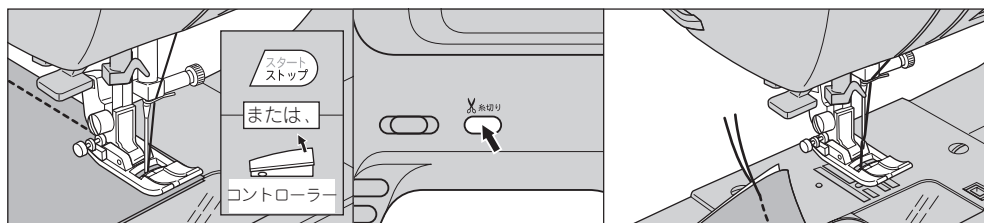


少しぬったら糸をはなします。

⚠注意：ケガ防止のために；

- 針先に十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

- ⑤ 終わりまで来たら、ストップします。
- ⑥ 糸切りボタンを押します。
- ⑦ 押えを上げ、布を引き出します。



針は下位置で止まります。

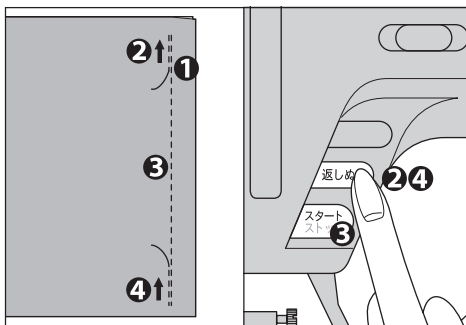
- 番手が30番以下の太い糸や、ナイロン糸等特殊な糸には、糸切りボタンを使わずにミシン左側の糸切りにかけて切ってください。（23ページ参照）
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

■返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、返しぬいボタンを使って、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。（返しぬいボタンは、押している間、返しぬいをし、離すと止まります。）

- ① 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
- ② 返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。
- ③ ぬいをスタートさせます。
- ④ 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。

実用3は、自動返しぬいの付いた直線ぬいです。（24ページ参照）



■自動止めぬい、自動糸切り

自動止めぬいボタン (Ⓢ) を押すと、実用ぬいの模様のぬい始めとぬい終わりに、自動的に止めぬいをします。また、自動糸切りボタン (Ⓢ✂) を押すと、止めぬいをした後、自動的に糸を切ります。

- ① 模様を選んだ後、
 - a. 止めぬいだけをしたい場合は、自動止めぬいボタン (Ⓢ) を押します。
 - b. 止めぬいをして、糸も切りたい場合は、自動糸切りボタン (Ⓢ✂) を押します。

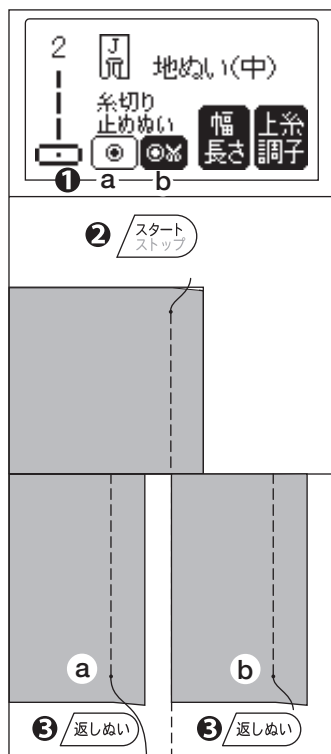
押したボタンが白黒反転表示されます。

もう一度押すと取り消されます。

両方押された場合は、止めぬいと糸切りをします。

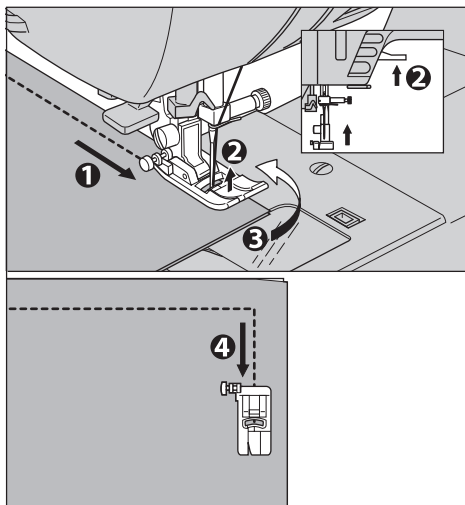
- ② ぬいをスタートさせます。
ミシンは止めぬいをしてから模様をぬい始めます。
スタート・ストップボタンで中断できます。

- ③ ぬい終わりまで来たら、返しぬいボタンを1回押します。
 - a. 止めぬいボタンを選んでいたら、止めぬいをして止まります。
 - b. 糸切りボタンを選んでいたら、止めぬいをして、糸を切ります。



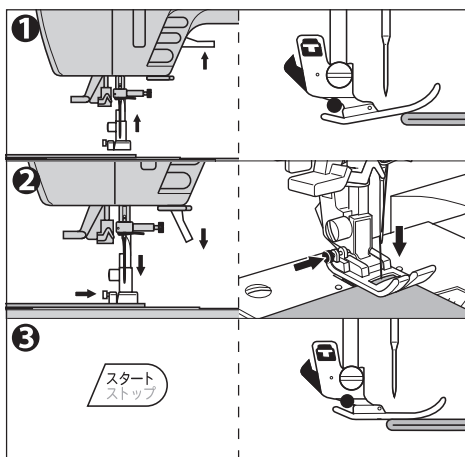
■ぬい方向の変え方

- ❶ 布地の角まで来たら、ストップします。
(針が下位置で停止します。)
- ❷ 押えを上げます。
- ❸ 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ❹ 押えを下げて、続きをぬいます。

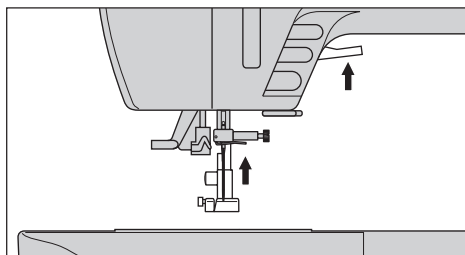


■厚地のぬい始め

- ❶ 厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないときは、押えをいったん上げます。
- ❷ ジグザグ押えの左側にある黒いボタンを押しながら、押え上げレバーを下げます。
- ❸ ぬいをスタートさせます。
押えの傾きが固定されて布が送られます。
ぬい進むと、自動的に固定解除されます。

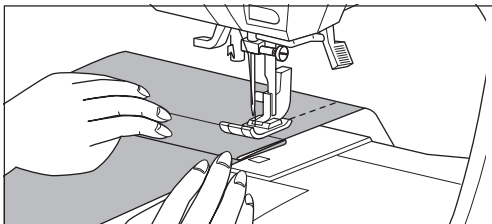


- 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。



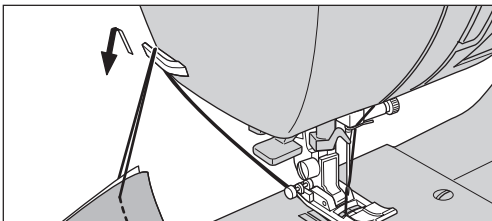
■段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



■糸切りボタンを使わないとき

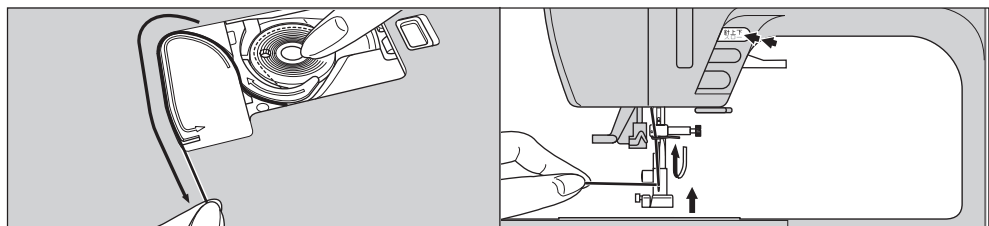
番手が30番以下の太い糸や、ナイロン糸など特殊な糸を使っているとき、ぬいはしの糸を長くとりたいたときなどは、糸切りボタンを使わずに、針と押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の糸切りに糸を後ろから手前にかけて切ります。



■下糸を長くにとってぬい始めたいとき

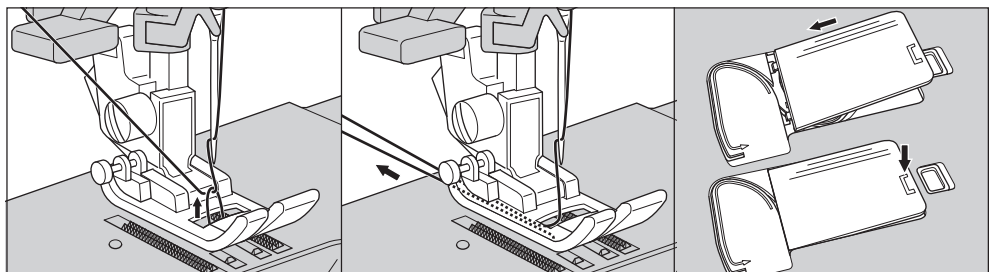
下糸を長くにとってぬい始めたいときは、次のようにして下糸を引き上げておきます。

- 1 15ページの「ボビンのセット」を見ながらボビンを入れ、糸をみぞに通します。このとき、糸は切らないでください。
- 2 押えを上げ、上糸をかるく持ちながら、針上下ボタンを2回続けて押します。

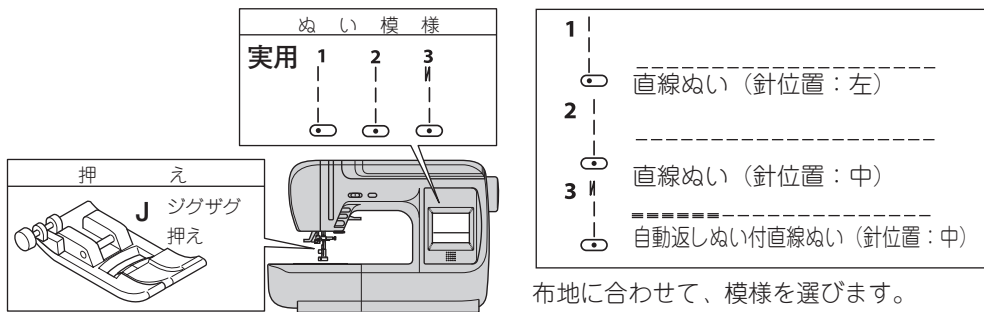


はずみ車が手前に1回転します。

- 3 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。
- 4 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。
- 5 ボビンカバーを取り付けます。(15ページ参照)



直線ぬい (地ぬい)

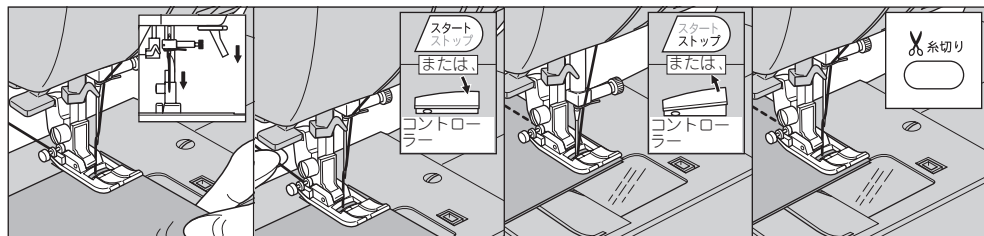


布地に合わせて、模様を選びます。

針位置：左は端ぬいに適しています。

針位置は、変えることができます。(11ページ参照)

- ① 布を入れ、押えを下げます。
- ② 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- ③ ぬい終わりまできたら、ストップさせます。
- ④ 糸切りボタンを押します。



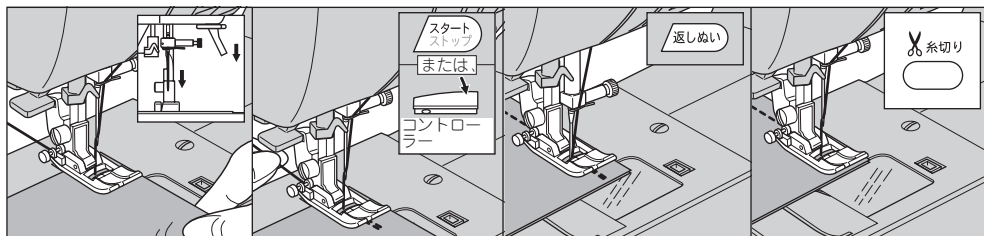
ぬっている間、手は布にかかるくそえるようにします。

番手が30番以下の太い糸や特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。

(23ページ参照)

■ 自動返しぬい付直線ぬい ()

- ① 布を入れ、押えを下げます。
- ② 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- ③ ぬい終わりまできたら、返しぬいボタンを1回押します。
- ④ 糸切りボタンを押します。



ミシンは数針進んだ後、返しぬいをして、再びぬい進みます。ぬいを中断するには、スタートストップボタンを押します。(コントローラーの場合は、ペダルをはなします)

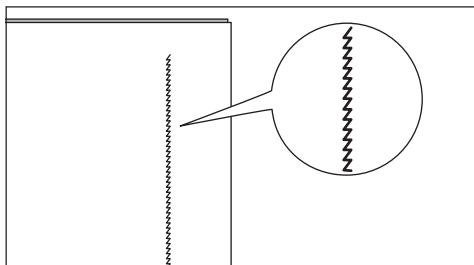
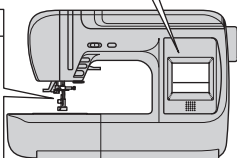
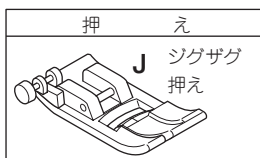
ミシンは数針返しぬいをした後、再びぬい進み、ぬい終わりの位置で自動的に止まります。

番手が30番以下の太い糸や特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。(23ページ参照)

伸縮ぬい

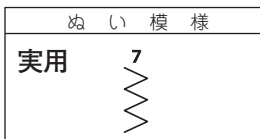


伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

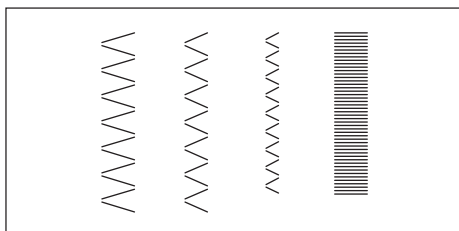
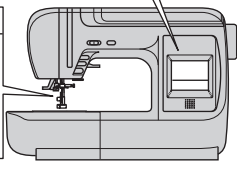
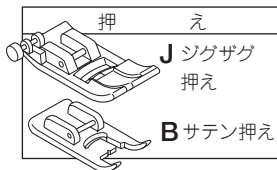


- 伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

ジグザグぬい

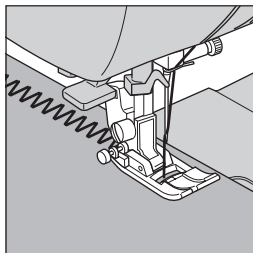


ぬい目長さ、ジグザグのふり幅を調節していろいろな形のジグザグぬいができます。

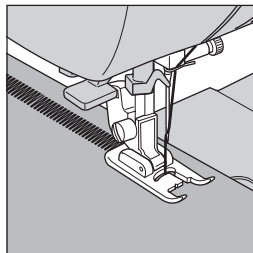


布地のはぎあわせやふちかがりなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

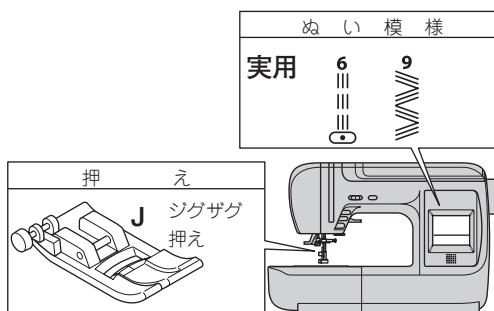
ふちかがりぬいは、28ページを参照ください。



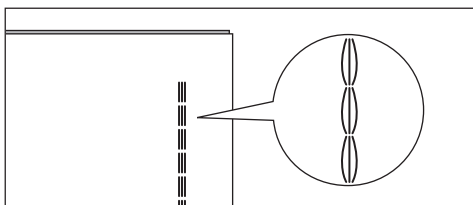
ぬい目長さをこまかくして、密着ぬいをぬう場合には、サテン押えをお使いください。



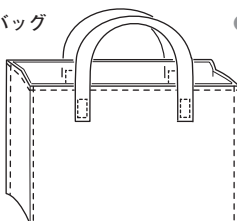
伸縮強化ぬい



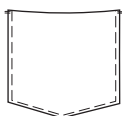
直線とジグザグの3重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



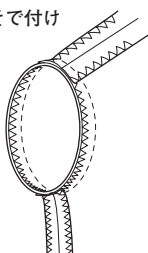
● バッグ



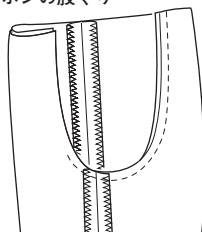
● ポケット



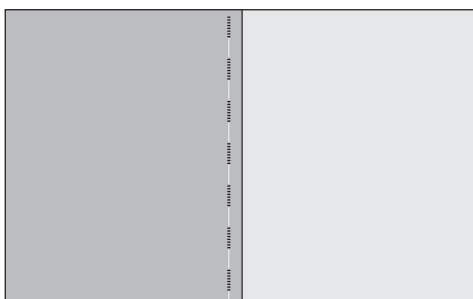
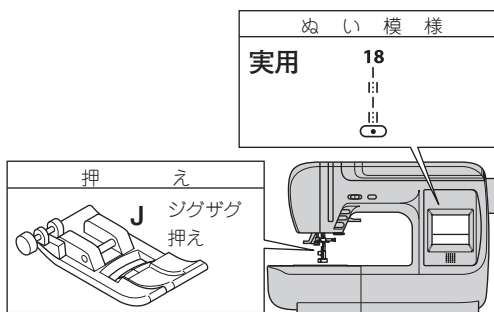
● そで付け



● ズボンの股ぐり



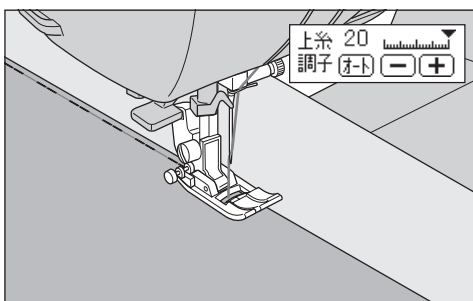
手ぬい風キルトステッチ



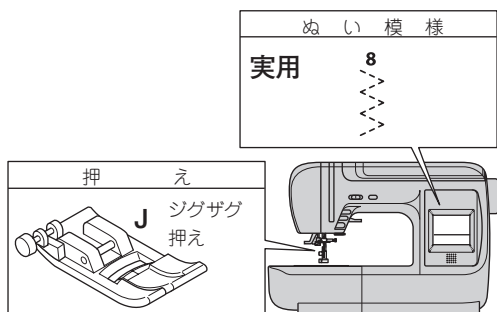
上糸に透明なナイロン糸や、目立たない糸を使い、下糸にキルト布地に合う配色の糸を使います。

上糸調子を強くして（12ページ参照）、下糸が布の表側に出るようにすると、手でぬったような風合いのキルトぬいができます。

● 糸調子を強くするぬいなので、普通地、厚地の布にだけお使いください。

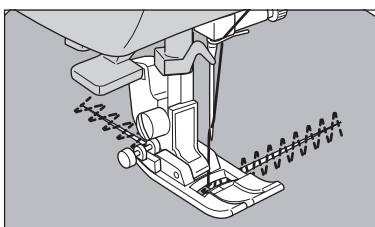


点線ジグザグぬい (つくろいぬい)

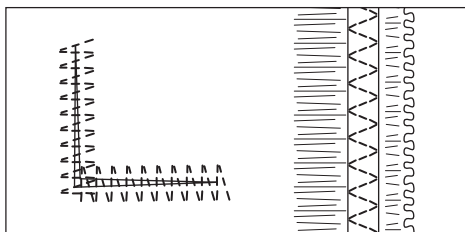


●つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。
ボタンホール押えを使ったつくろいぬいもあります。
(32ページ参照)

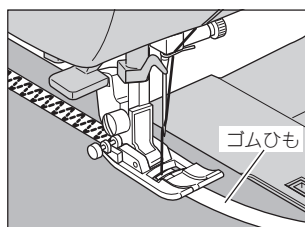


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。

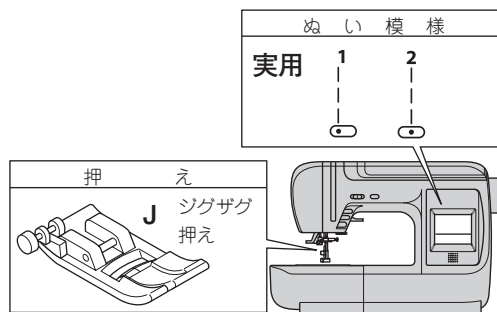


●ゴムひも付け

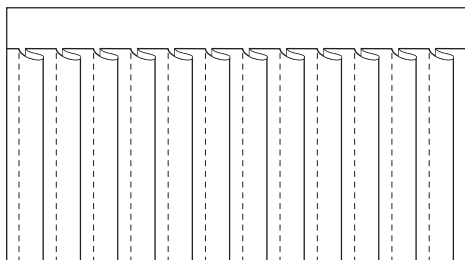
ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。



ピンタック



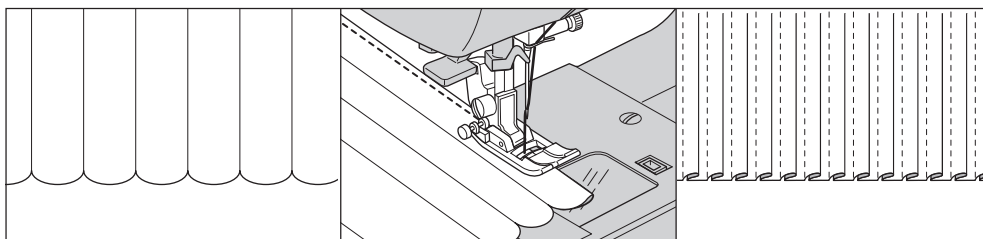
ブラウスなどの装飾に使います。



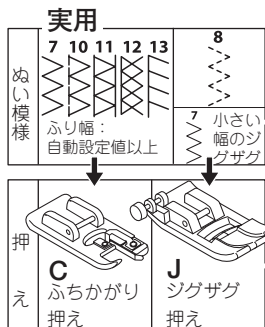
① アイロンでピンタックの折り山を整えます。

② 折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。

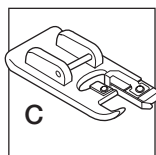
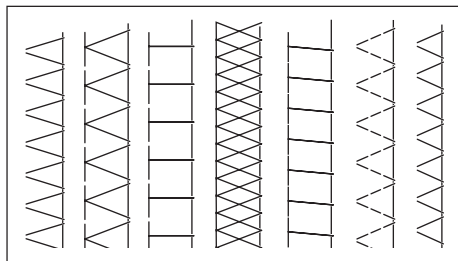
③ アイロンで片側に倒しながら、ピンタックをぬいます。



ふちかがりぬい (たち目かがり)



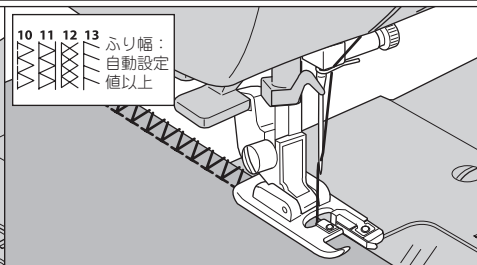
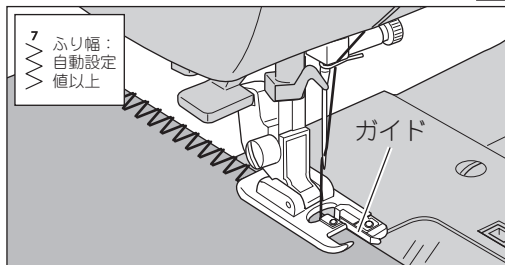
あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。



ふちかがり押えを使う場合：
布はしを押えのガイドにあ
て、針が布はしいっぱい
に落ちるようにしてぬい
ます。

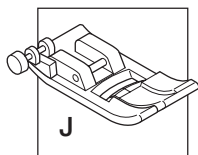
注意：ケガ防止のために；

ふちかがり押えは、必ず実用7、10～13に合わせ、
ふり幅を自動設定値以上にお使いください。
ほかのぬい模様では針が押えにあたり危険です。



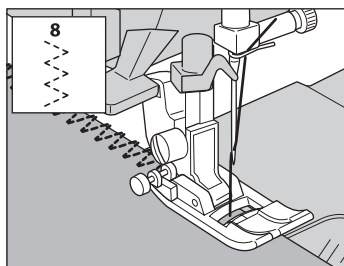
たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬいです。

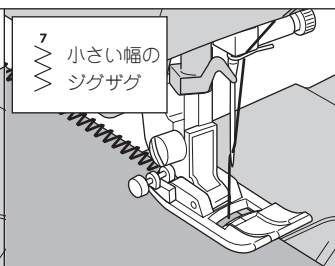


ジグザグ押えを使う場合：
針が布はしぎりぎりに落ちる
ようにしてぬいます。

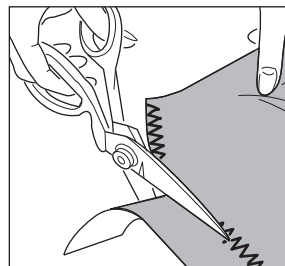
あらかじめ布地の内側を
ぬい、あとからぬいはし
を切り落とす方法もあり
ます。



厚地、伸縮性のある布に利用します。

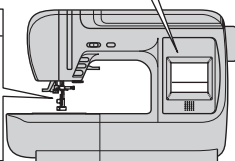
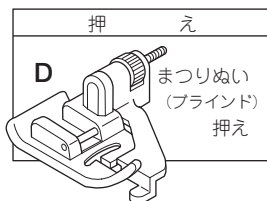


小さい幅のジグザグでかがるときに
使います。

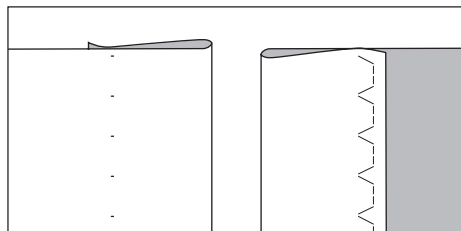


この場合、ぬい糸を切らないよう
に注意してください。

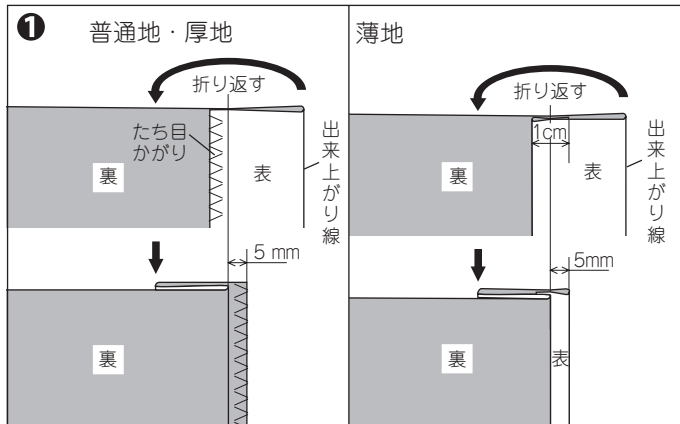
まつりぬい (ブラインドステッチ)



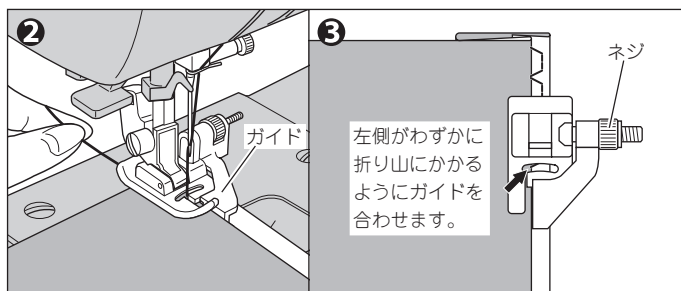
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。



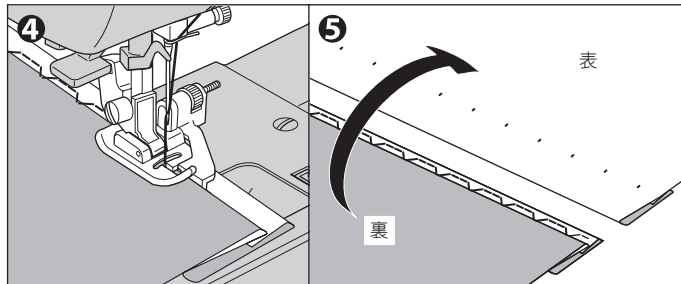
- 1 布を出来上がり線で折り、図のように布端が5mm出るように折り返します。
薄地の場合、布端をあらかじめ1cm中に折り込んでから、5mm出るように折り返します。
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。



- 2 折り山を押えのガイドにあてます。
- 3 針が最も左側きたときに折り山にわずかにかかるようにガイドの位置を調節します。
ネジを手前に回すとガイドは右に、向う側に回すとガイドは左に移動します。



- 4 折り山をガイドにあてながらぬいます。
- 5 ぬい終わりましたら、布を返します。

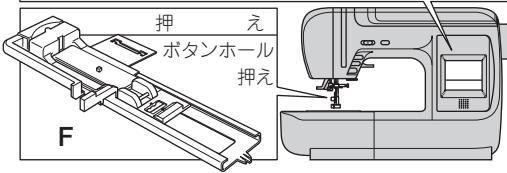


- 針上位置で模様を選ぶと、針は最も左側にくるようになっています。

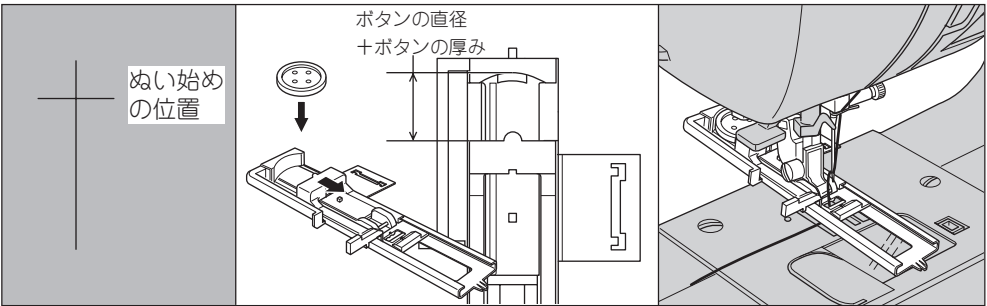
ボタンホールぬい

8種類のボタンホールをそれぞれワンタッチでぬうことができます。

実用		ぬ	い	模	様
31	薄地、普通地用	32	厚地用	33	力のかかる厚地用
34	薄地、普通地用	35	力のかかる薄地、普通地用	36	薄地用
37	飾りぬい伸縮地	38	伸縮地用		



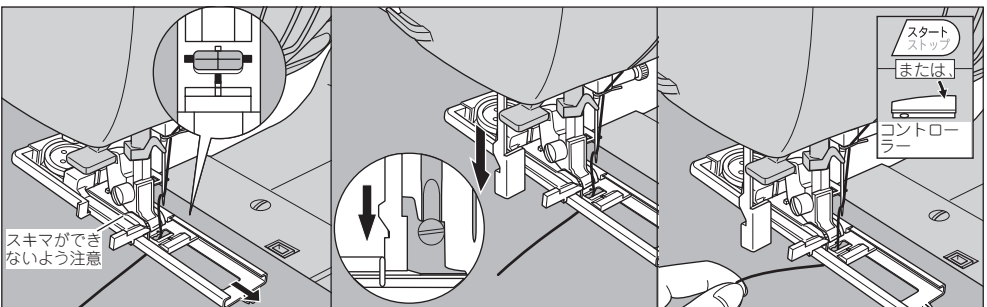
- 1 布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。
- 2 ボタンを押えの台にセットします。
- 3 上糸を押えの穴に通し、左側に出しておきます。



- 台にボタンがのらないとき
台の幅が「ボタンの直径+ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

下糸を引き上げているときは、下糸も左側に出しておきます。

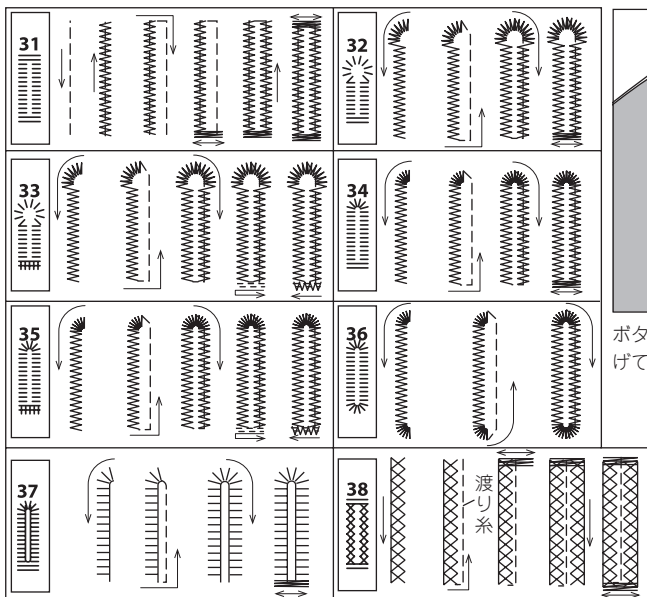
- 4 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。
- 5 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。
- 6 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。



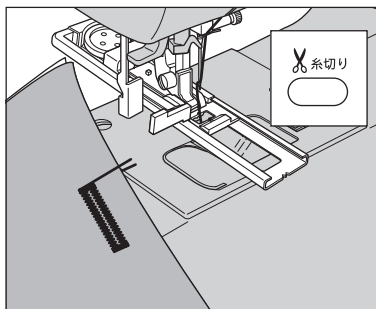
押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番手前に引いてください。

ご注意: ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、スタートしません。

7 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。
ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。



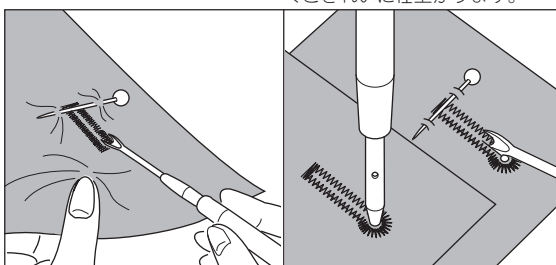
8 糸切りボタンを押します。押えを上げて、布ははずします。



ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを上げて押えの枠を一番手前に引いてください。

9 シームリッパーでボタン穴を切り開きます。

実用32, 33のキーホールには、はと目穴パンチ（市販品）で穴をあけてからシームリッパーで切り開くときれいに仕上がります。



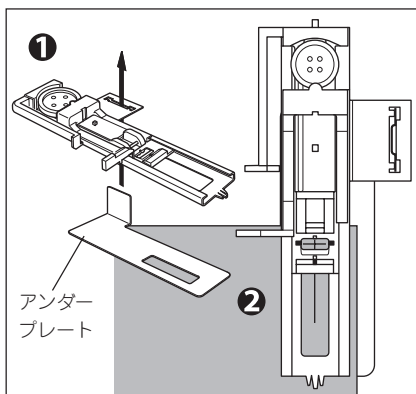
ぬい糸を切らないように注意してください。
かん止めのところにまち針を刺しておくと、切り過ぎがありません。
実用38は、中央の糸（渡し糸）を切って取り除きます。

穴をあけるときは、下に厚紙などをしてください。

●アンダープレートの使い方

薄地や送りにくい布、布はしなどのぬいにくい部分のボタンホールには、アンダープレートを使います。

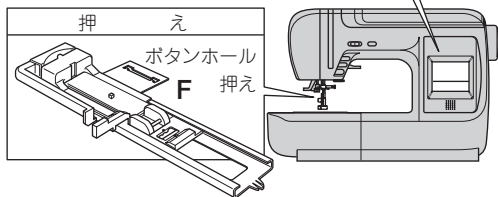
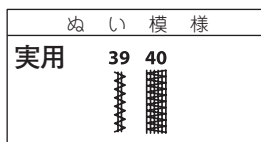
1. アンダープレートを押えの下から差し込んだまま、押えホルダーに取り付けます。
2. 布を押えの枠とアンダープレートの間に入れてぬいます。



⚠️ 注意：ケガ防止のために；

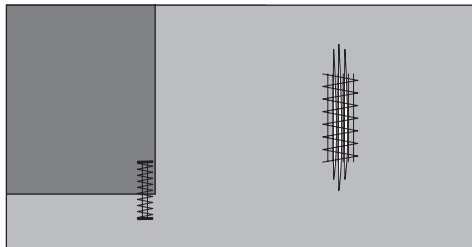
シームリッパーで穴を開く時、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべった時ケガをする恐れがあります。

かん止め・つくろいぬい

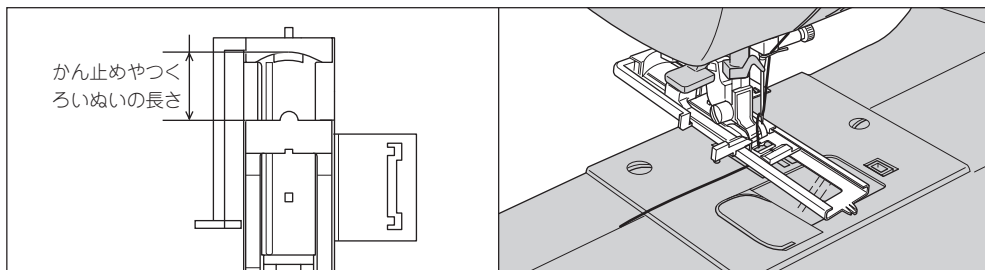


かん止め：ポケット口やあき止まりなどの力がかかってほつれやすいところに用います。

つくろいぬい：やぶれたり、薄くなった布地の補強に用います。

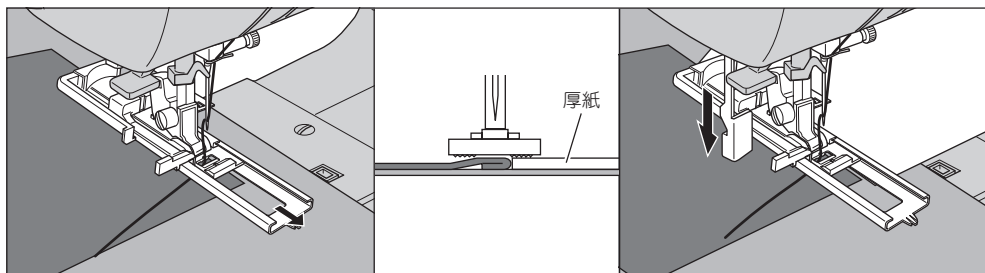


- ① ぬいたいかん止めやつくろいぬいの長さの分だけ、押えの台をスライドさせます。
- ② 上糸を押えの穴に通し、左側に出しておきます。



下糸を引き上げているときは、下糸も左側に出しておきます。

- ③ ぬい始めの位置が向こう側になるように、布を押えの下にセットして、押えを下げます。
- 厚い布のポケット口のかん止めをぬうには、厚紙をポケットの横にそえるとぬいやすくなります。
- ④ ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。



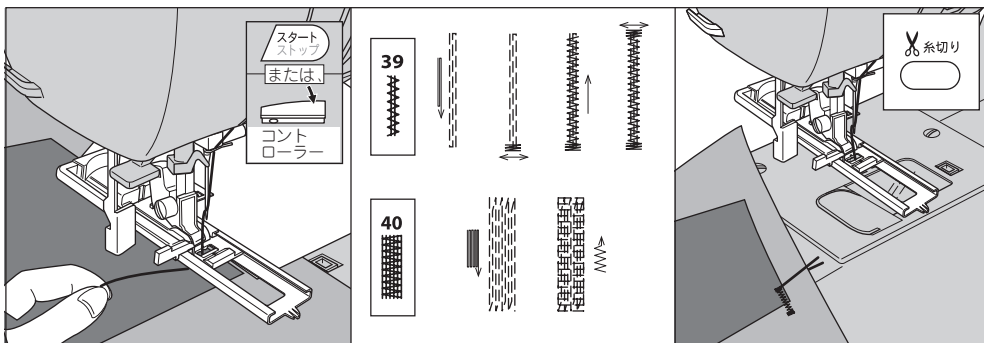
押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番手前に引いてください。

ご注意: ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、スタートしません。

5 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。

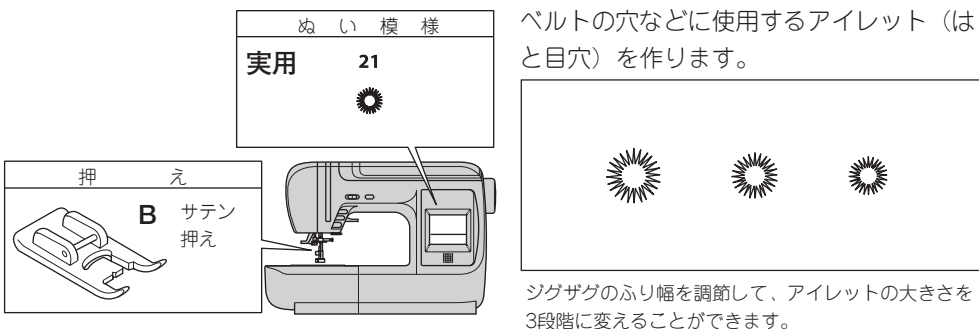
6 図の順序でかん止めやつくろいぬいがぬわれていきます。

7 糸切りボタンを押します。押えを上げて布を出します。



ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

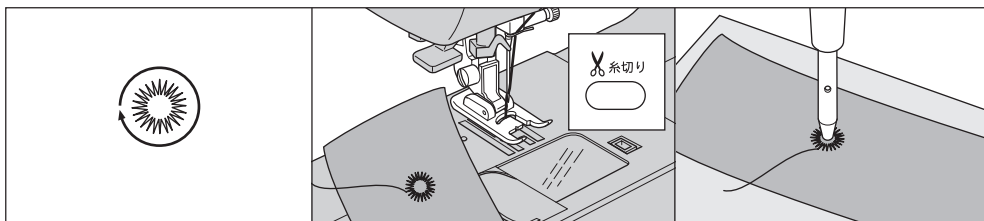
アイレット (はと目穴)



1 布を入れ、押えを下げてスタートします。

2 糸切りボタンを押し、押えを上げて布を取り出します。

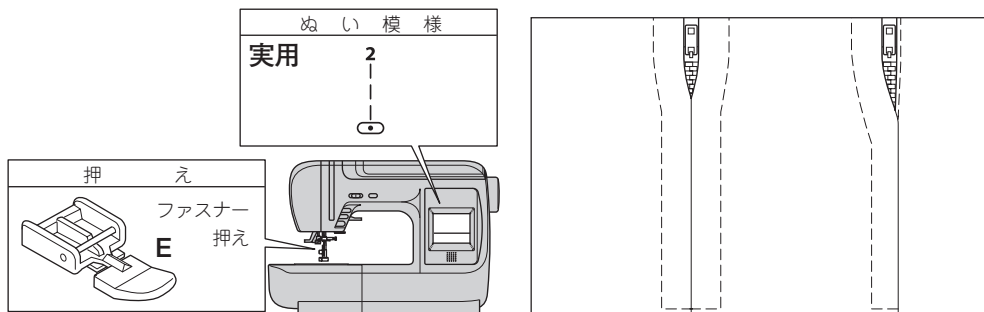
3 はと目穴パンチ (市販品) で穴をあけます。



ぬい終わると止めぬいをして自動的に停止します。

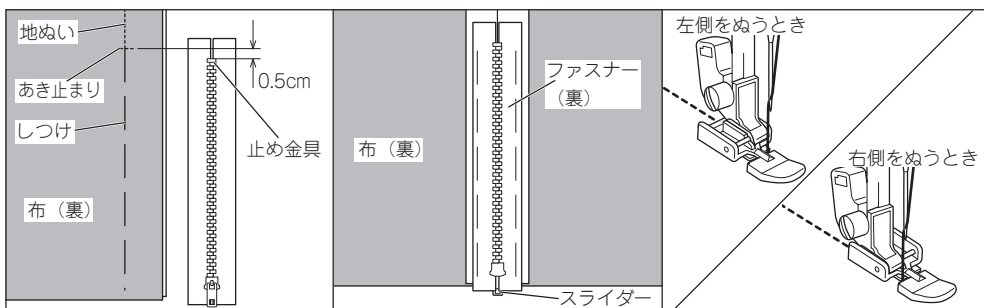
穴をあけるときは、下に厚紙などをしてください。

ファスナー付け (つき合わせ・脇あき)



■つき合わせ

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- ② ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。

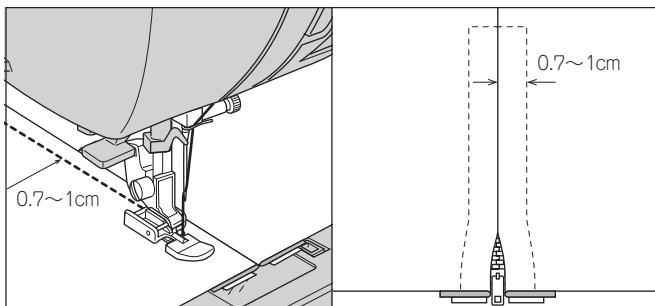


あき部分はしつけをします。

ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- ⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



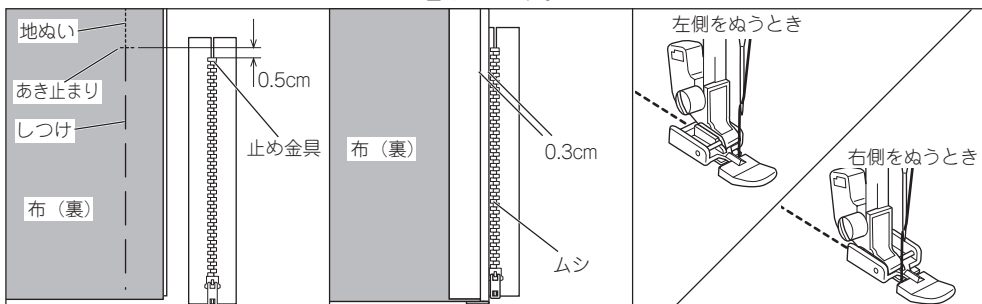
布の合わせ目から0.7~1cm はなしてぬいます。

右側も同様に0.7~1cm はなしてぬいます。

注意：ケガ防止のために；
ファスナー押えは、必ず実用(1)だけにし、針位置も変えないでください。ほかの模様、針位置では、針が押えにあたり危険です。

脇あき

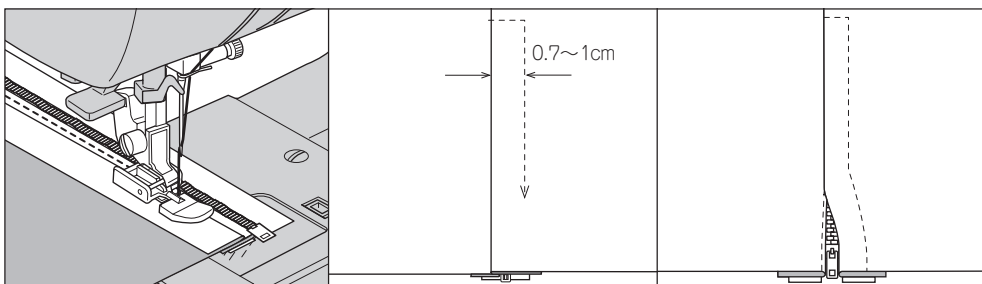
- 1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- 2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- 3 ファスナー押えを取り付けます。



あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

- 4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- 5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。
- 6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

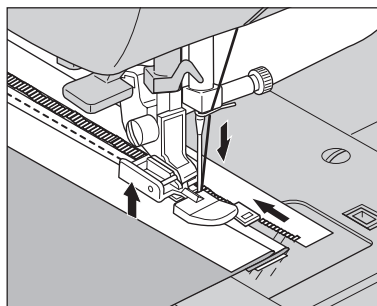


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

右側は、布の折り目から0.7~1cmはなしてぬいます。

●スライダーをよけてぬうには：

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
(針が下位置で止まります。)
2. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
3. 押えを下げてぬい続けます。

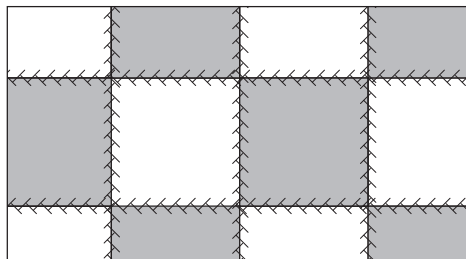
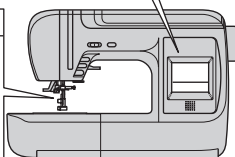
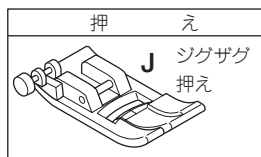


ファスナー付け（脇あき）

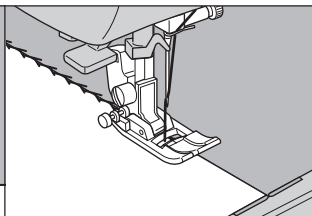
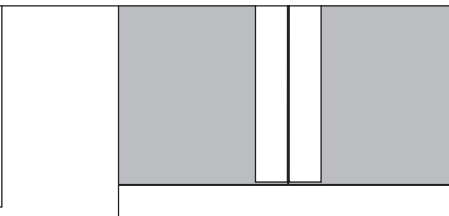
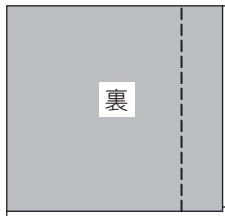
パッチワーク

ぬい模様
16 17
実用

いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。



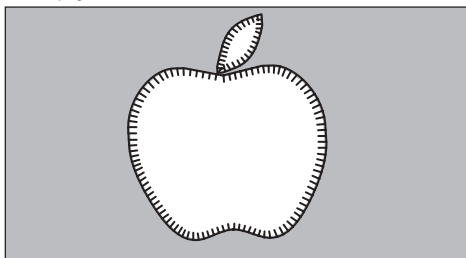
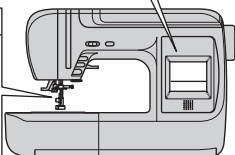
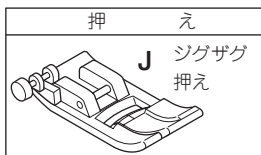
- ① 2枚の布地を中表に合わせ地ぬいをします。
- ② ぬい代をわります。
- ③ 両方の布地に模様がまたがるようにしてぬいます。



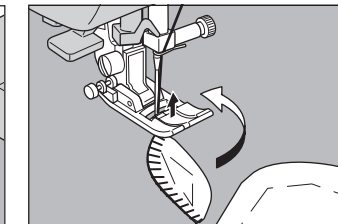
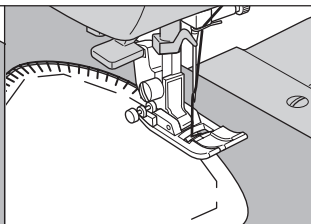
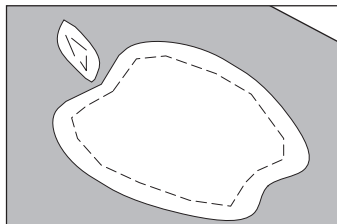
アップリケ

ぬい模様
7 19
実用

市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。



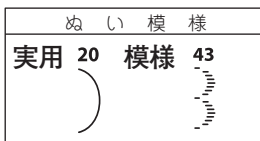
- ① アップリケ布を止めます。
 - ② アップリケの布はしをたち目かきと同じ要領でぬいつけます。
- 急な角度をぬう場合
布はしに針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。



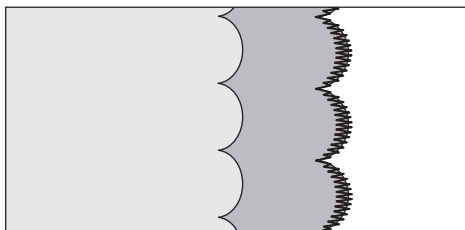
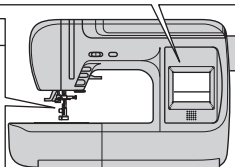
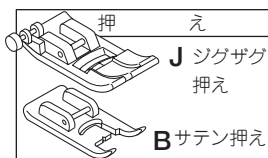
のりづけまたはしつけをします。

カーブの強いものは、シグザグのふり幅を小さくします。

スカラップ ステッチ

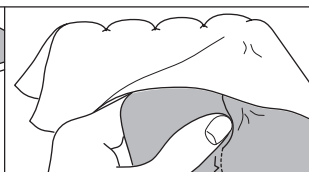
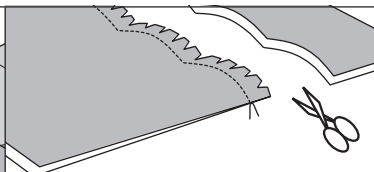
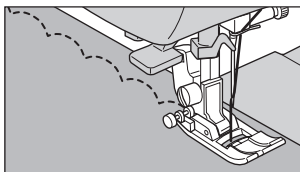


テーブルクロスやブラウスのえりのふち飾りに使います。



●スカラップ 1 (実用20)

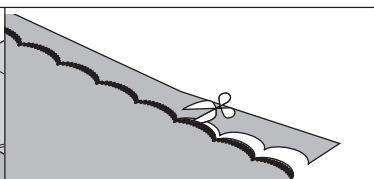
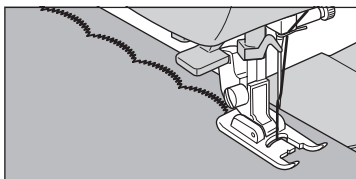
- ① 布を中表に折り、その端にそってぬいます。
- ② ぬい目にそって0.3cm位のぬいしろをとって切り取り、ぬいしろに切り込みを入れます。
- ③ 布を表に返して、ぬい目の山を表に押しだし、アイロンで仕上げます。



●スカラップ 2 (模様43)

模様ぬい43の連続ぬいでもスカラップををぬうことができます。この場合、サテン押えをお使いください。(選び方は、38ページ「模様・文字ぬい」参照)

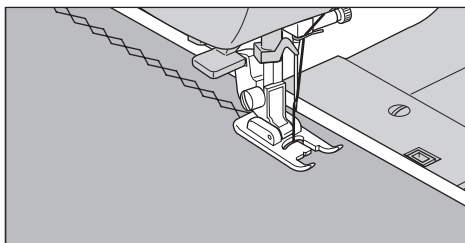
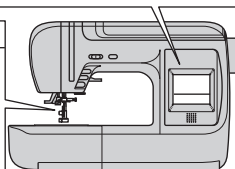
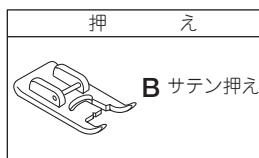
- ① 布はしに模様がかからないよ
- ② 糸を切らないように注意してぬうにはしを残してぬいます。
- ③ い目にそって布を切ります。



飾りぬい



装飾的なぬいに用います。



薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしてぬってください。

模様・文字ぬい

このミシンは、模様と文字を組み合わせて、連続してぬうことができます。

模様、ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベットブロック体、アルファベット筆記体の6つのグループに分けられます。（トップカバー内側や、次ページ、55ページを参照ください。）

■ 模様・文字の選び方

① 模様・文字ボタンを押します。

6つのグループ選択ボタンが表示されます。

- a. 模様、b. ひらがな、c. カタカナ、d. 漢字、
- e. アルファベット（ブロック体） f. アルファベット（筆記体）

② ぬいたい模様・文字のグループボタンを押します。

そのグループの最初の5つの模様・文字ボタンが表示されます。

- g. 模様・文字ボタン、h. 使用する押え、i. 選んでいるグループ
- j. 確認ボタン（40ページ参照）、k. 自動糸切りボタン（43ページ参照）
（模様・文字ぬいの画面では、ぬい方向が横向きに表示されます。）

③ 次▶ボタンを押すごとにグループ内の次の5つの模様・文字が、前◀ボタンを押すごとに前の5つの模様・文字が現れますので、ぬいたい模様・文字が現れるまで、次、前ボタンを押します。

前、次ボタンを押す代わりに、模様・文字ボタンを押さえながら、指を左に移動すると、次の模様・文字を、右に移動すると、前の模様・文字を表示させることもできます。

指をすばやく動かすと高速で移動します。

④ ぬいたい模様・文字ボタンを押します。

選ばれた模様・文字が画面の左上に表示されます。

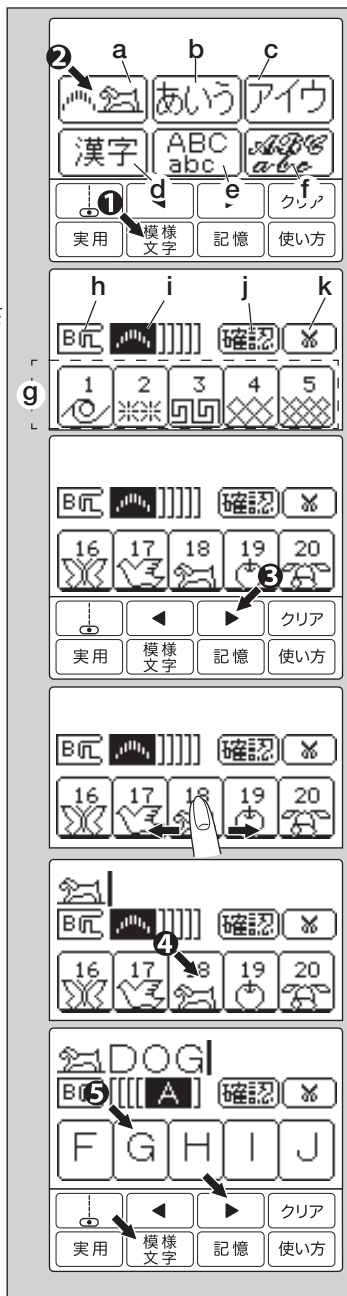
記憶される模様の1単位が次ページに表示してあります。

（文字の場合は、1文字が記憶されます。）

⑤ ① - ④と同じようにして、次にぬいたい模様・文字を選んでいきます。

選ばれた模様・文字が画面左上に順番に表示されていきます。

表示しきれなくなったときは、先頭の部分が画面から消えていきます。（画面から消えても、ミシンは、選んだ順番を記憶しています。40ページ「模様・文字の確認」参照）



■ 模様・文字一覧

模様・文字は60個まで記憶することができます。

模様

模様文字 → 

1	2	3	4	5
				
6	7	8	9	10
				
11	12	13	14	15
				
16	17	18	19	20
				
21	22	23	24	25
				
26	27	28	29	30
				
31	32	33	34	35
				
36	37	38	39	40
				
41	42	43	44	45
				

↑ 前
↓ 次

模様の太線で表示された部分が、選んだときに記憶される1単位です。

模様45は、止めぬいです。模様の組み合わせの最後に記憶させると、自動停止ぬいになります。(43ページ参照)

ひらがな

模様文字 → あいう

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や	ゆ	よ	□	□
ら	り	る	れ	ろ
わ	を	ん	ゑ	ゐ
つ	や	ゆ	よ	ー
が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ	ぢ	づ	で	ど
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
0	1	2	3	4
5	6	7	8	9

↑ 前
↓ 次

カタカナ

模様文字 → アイウ

アイ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ
サ	シ	ス	セ
タ	チ	ツ	テ
ナ	ニ	ヌ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ
マ	ミ	ム	モ
ヤ	ユ	ヨ	□
ラ	リ	ル	□
ワ	ヲ	ン	ヱ
ツ	ヤ	ユ	ヨ
ガ	ギ	グ	ゲ
ザ	ジ	ズ	ゼ
ダ	ヂ	ヅ	デ
バ	ビ	ブ	ベ
パ	ピ	プ	ポ
0	1	2	3
5	6	7	8

↑ 前
↓ 次

漢字

模様文字 → 漢字

保	育	園	幼	稚
小	中	学	校	年
組	才	生	日	月
火	水	木	金	土
○	一	二	三	四
五	六	七	八	九
十	(	)	?	!

↑ 前
↓ 次

アルファベット

ブロック体

模様文字 → ABC abc

A	B	C	D	E
F	G	H	I	J
K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y
Z	□	□	□	□
a	b	c	d	e
f	g	h	i	j
k	l	m	n	o
p	q	r	s	t
u	v	w	x	y
z	&	!	/	'
0	1	2	3	4
5	6	7	8	9

↑ 前
↓ 次

筆記体

模様文字 → ABC abc

A	B	C	D	E
F	G	H	I	J
K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y
Z	□	□	□	□
a	b	c	d	e
f	g	h	i	j
k	l	m	n	o
p	q	r	s	t
u	v	w	x	y
z	&	!	/	'
0	1	2	3	4
5	6	7	8	9

↑ 前
↓ 次

ひらがな、カタカナ、アルファベットの「□」は、1文字分あけるときに使います。(実際には、1針ぬい進むだけです。)

ぬい上がり文字は、見本と少し異なることがあります。

■ 模様・文字の確認

記憶させた模様・文字が表示しきれなくなった場合は、先頭の部分が画面から消えていきますが、ミシンは、この順番を記憶しています。

確認ボタンで記憶させた模様・文字を確認することができます。

また、このとき、模様のジグザグのふり幅やぬい目長さを変えたり、全体の上糸調子を変えることができます。

① 確認ボタンを押します。

最後に記憶させた模様・文字が反転表示されます。

（確認画面）

② 前 ◀ ボタンを押すと反転が1つ前の模様・文字に移動します。前ボタンを押すごとに1つずつ前に、次 ▶ ボタンを押すごとに次に移ります。画面の1番前までくるとその前に記憶した模様・文字が現れます。

記憶した模様・文字の1番前や、1番最後になると音が変わります。

a 模様を記憶させた場合、反転表示された模様のぬい目長さ・ジグザグのふり幅が下段に表示されますので、右図のようにボタンで調節できます。

（文字は、ぬい目長さ・ジグザグのふり幅を変えられません。また、文字しか記憶していない場合、上糸調子調節画面が現れます。）

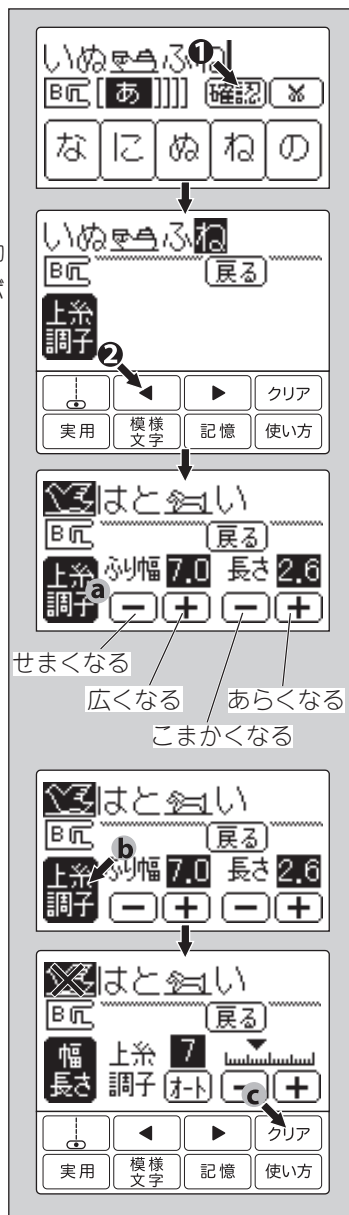
b 上糸調子ボタンを押すと、上糸調子調節画面に切りかわります。

組み合わせた模様・文字全体の上糸調子を自動設定値から変えることができます。（上糸調子の取り方は、12ページ参照）

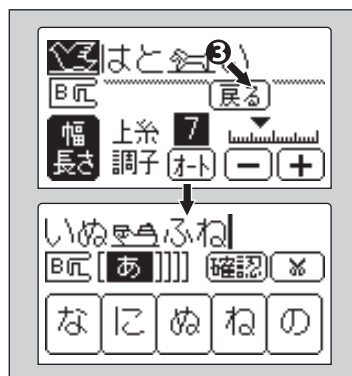
（上糸調子ボタンは、幅・長さボタンに変わります。）

c クリアボタンを押すと反転表示されている模様・文字が削除されます。

長めに押すとまとめて削除されます。



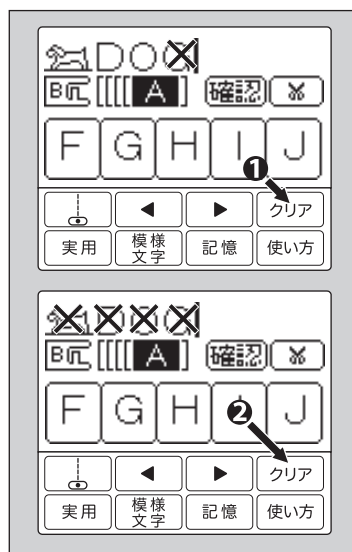
- ③ 戻るボタンを押すと模様・文字選択画面に戻ります。



■ 模様・文字の削除

記憶させた模様・文字を削除したいときは、クリアボタンを押すと、最後に選んだ模様・文字が削除されます。

- ① クリアボタンを押すごとに、後ろから1つずつ削除されていきます。



- ② 長めに押すとまとめて削除されます。

- 確認画面でクリアボタンを押すと、反転している模様・文字が削除されます。（前ページ参照）

■ 模様・文字の記憶

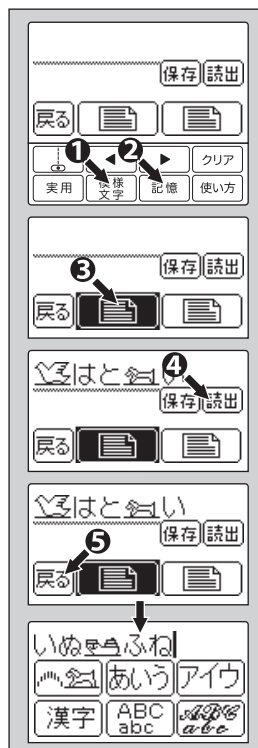
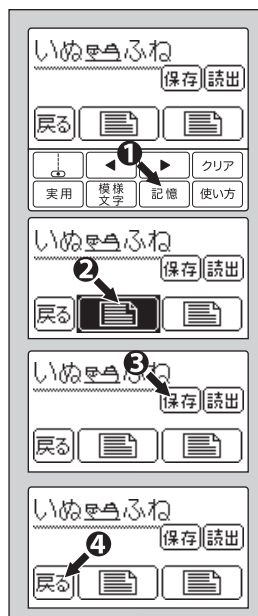
組み合わせた模様・文字を2種類記憶できます。
組み合わせは、電源を切っても、記憶されています。

● 記憶するには、

- ① 記憶させる組み合わせが決まったら、記憶ボタンを押します。
記憶画面が表示されます。
- ② 2つのファイルボタンのどちらかを選びます。
選んだ方が反転表示されます。
すでに記憶された組み合わせがあるときは、上書きされます。
- ③ 保存ボタンを押します。
「保存しました。」というメッセージが表示されます。
- ④ 模様・文字ぬいに戻る場合は、戻るボタンを押します。

● 読み出すには、

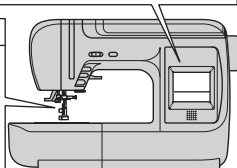
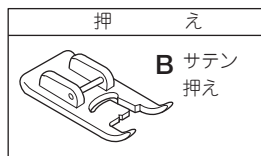
- ① 模様・文字ボタンで模様・文字画面にします。
- ② 記憶ボタンを押します。
記憶画面が表示されます。
- ③ 2つのファイルボタンの読み出したい方を選びます。
選んだ方が反転表示されます。
- ④ 読出ボタンを押します。
読み出された組み合わせが画面上段に表示されます。
- ⑤ 戻るボタンを押します。
読み出された組み合わせをぬったり、組み合わせの追加、削除ができます。



模様・文字のぬい方

ぬ い 模 様

記憶させた
模様・文字



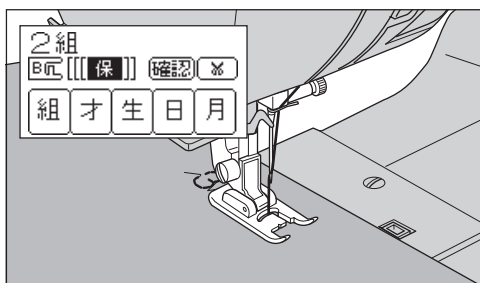
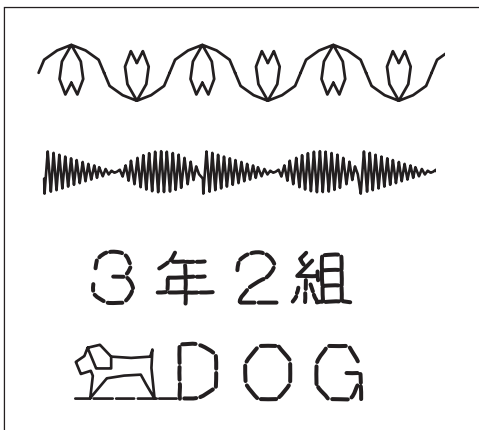
文字をぬうときの針は、11番のニット針が適しています。

また、糸は、細めのものをお使いください。

模様・文字を記憶させた後、布をセットしてスタートさせます。

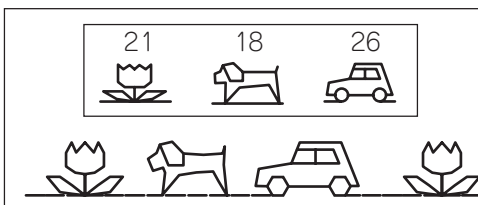
ミシンは記憶した模様・文字を順番にぬっていきます。

ぬい終わった模様・文字は、画面から消えていきます。



●繰り返しぬい

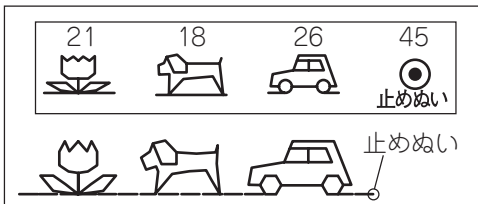
組み合わせの最後が止めぬい（45）を除く模様の場合、ミシンは、同じ組み合わせをくり返しぬいますので、止めたい位置まできたらストップしてください。



●自動停止ぬい

組み合わせの最後を止めぬい（45）や文字にした場合、ミシンは、組み合わせを1組ぬうと自動的に止まります。

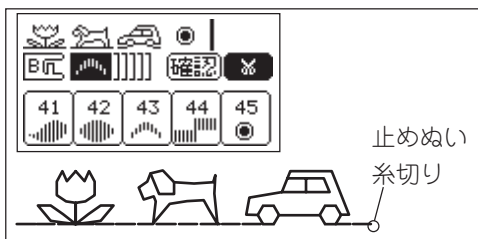
組み合わせの最初や途中に止めぬいを入れても、ミシンは、止めぬいをぬった後、止まらずに次の模様を続けてぬいます。



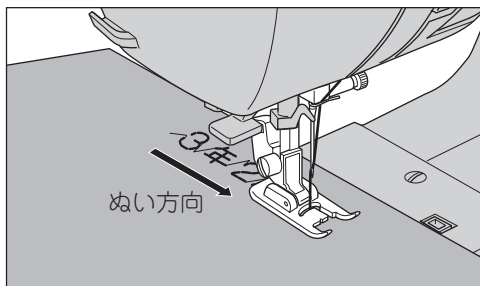
●自動糸切り

自動停止ぬいの際にあらかじめ自動糸切りボタンを押しておく、ぬい終わりの止めぬいをした後に、自動的に糸切りをします。

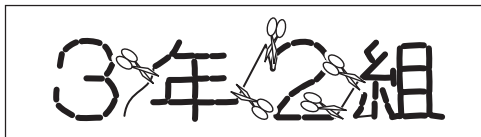
繰り返しぬいで自動糸切りボタンを押しても、糸切りはしません。



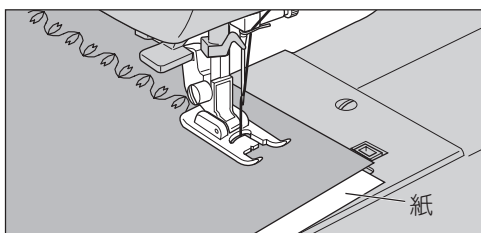
文字ぬいは、文字を横に倒した状態で、たて方向にぬい進みます。



文字ぬいの場合、ぬい終わったら文字と文字の間の余分な糸を切り取って仕上げます。



薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしいてぬってください。

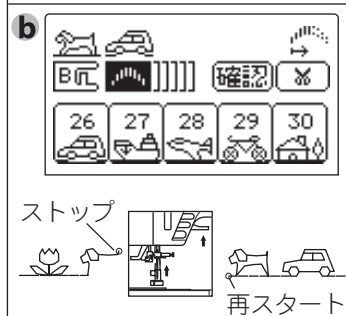


■ぬい状態表示機能

a ぬいの途中でミシンをストップさせると、ぬいの途中であることを示すマーク（) が上段右端に表示されます。このマークが表示されている場合、再スタートさせれば、そのまま続きをぬうことができます。



b ぬいをストップして押えを上げると、マークが（) 変わります。この場合、再スタートさせると、中断した模様・文字の最初からぬい始めます。これは、糸切れした場合などで模様・文字をぬい直すための機能です。糸切れした模様・文字をほどいて、その最初の位置に布を合わせてからぬい直してください。



C また、この機能でぬいの途中でジグザグのふり幅やぬい目長さ、上糸調子を確認したり、変更することができます。

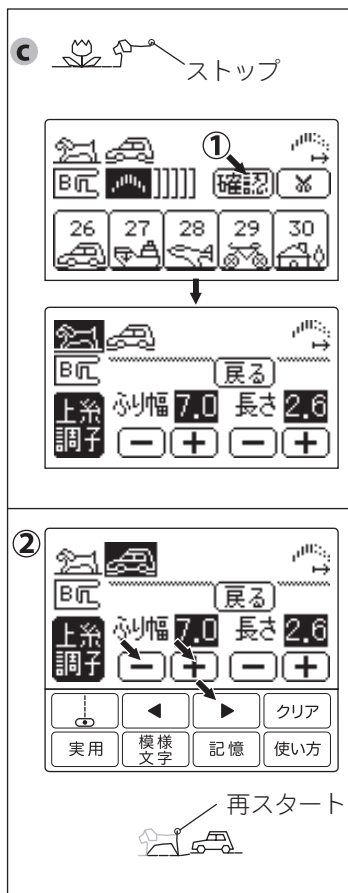
1. ぬいの途中でミシンを止め、確認ボタンを押します。画面は、確認画面になりますが、マークが表示されているので、ぬいの途中であることがわかります。

2. この状態で前、次ボタンで別の模様・文字を白黒反転させ、ジグザグのふり幅やぬい目長さ、上糸調子を確認したり変更したりできます。マークが表示されている限り、再スタートさせると、止めた模様・文字の続きをぬいます。

この変更は、ぬう前の模様には適用されますが、ぬい終わったり、ぬい途中の模様には、次のぬいから適用されます。

確認や、変更の途中でも、押えを上げるとマークに変わり、停止した模様・文字の最初からぬい始めます。

(この模様の変更は適用されません。)



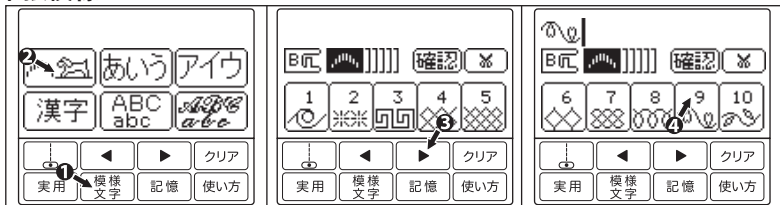
選び方とぬい方の例

(電源スイッチを入れた状態からの手順です。)

単独模様ぬい



同じ模様をつづけてぬいます。

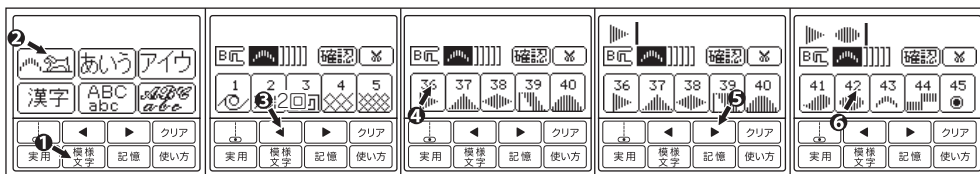


1. 模様・文字ボタンを押します。
2. 模様ボタンを押します。
3. 次ボタンを1回押します。
4. 模様(9)を選びます。

模様の組み合わせぬい



組み合わせた模様を繰り返しぬいます。



1. 模様・文字ボタンを押します。
2. 模様ボタンを押します。
3. 前ボタンを2回押します。
4. 模様(36)を選びます。
5. 次ボタンを1回押します。
6. 模様(42)を選びます。

ワンポイントぬい



模様を1回ぬって止まります。



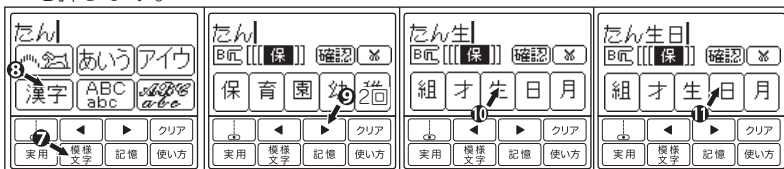
1. 模様・文字ボタンを押します。
2. 模様ボタンを押します。
3. 次ボタンを4回押します。
4. 模様(21)を選びます。
5. 次ボタンを4回押します。
6. 止めぬい(45)を選びます。

たん生日

組み合わせた文字を1回ぬって止まります。



1. 模様・文字ボタンを押します
2. ひらがなボタンを押します。
3. 次ボタンを3回押します。
4. 「た」を選びます。
5. 次ボタンを6回押します。
6. 「ん」を選びます。

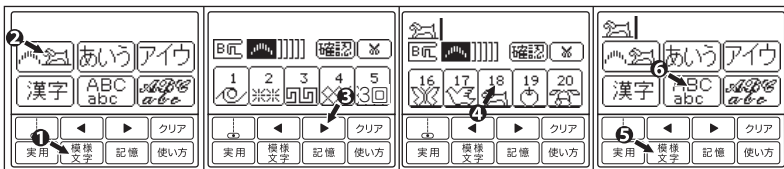


7. 模様・文字ボタンを押します。
8. 漢字ボタンを押します。
9. 次ボタンを2回押します。
10. 「生」を選びます。
11. 「日」を選びます。

模様と文字の組み合わせぬい



組み合わせた模様と文字を1回ぬって、糸切りをして止まります。



1. 模様・文字ボタンを押します。
2. 模様ボタンを押します。
3. 次ボタンを3回押します。
4. 模様（18）を選びます。
5. 模様・文字ボタンを押します。
6. アルファベット（ブロック体）ボタンを押します。



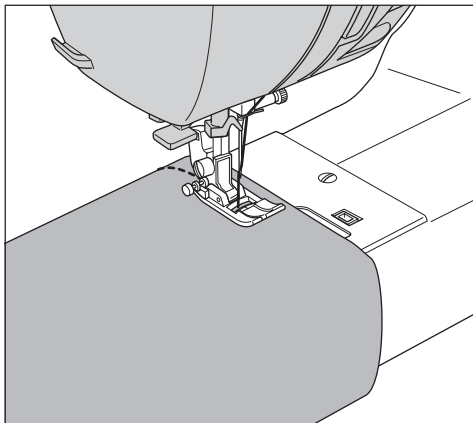
7. 「D」を選びます。
8. 次ボタンを2回押します。
9. 「O」を選びます。
10. 前ボタンを1回押します。
11. 「G」を選びます。
12. 自動糸切りボタンを押します。

フリーアームぬい

補助テーブルを取りはずすだけでフリーアームミシンになります。

袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

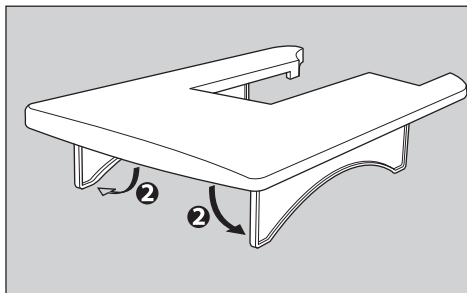
- 補助テーブルの取りはずし方は6ページを参照ください。
- まつりぬいは29ページを参照ください。



大型テーブルの取り付け方

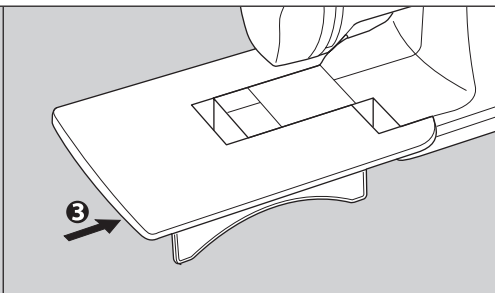
カーテンなどの大きなものをぬうときに取り付けます。

- 取り付け方

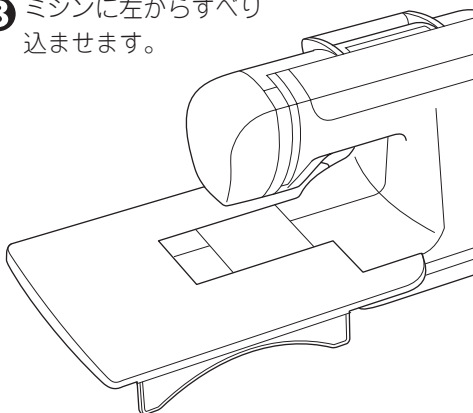


① 補助テーブルを取り外します。
(6ページ参照)

② 大型テーブルの脚を立てます。

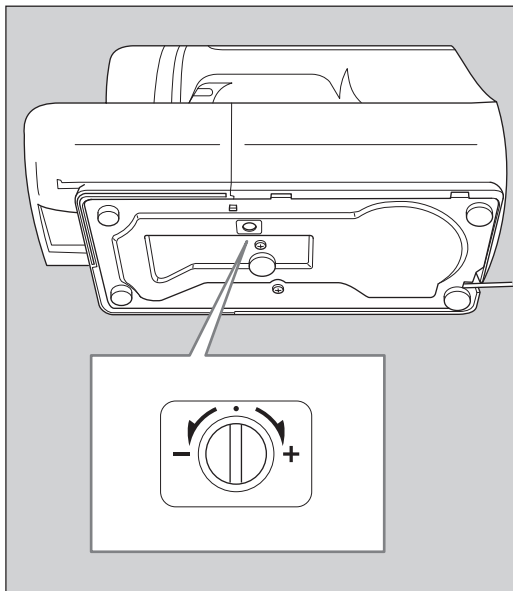


③ ミシンに左からすべり
込ませます。



ぬい目の形の調整

布地の種類や厚さなど、ぬうときの条件によってはぬい目の形がくずれてしまう場合があります。模様ぬい、文字ぬいをしているときに形がくずれるようでしたら、ミシン底部にあるバランス調整ネジを回してきれいなぬい目が得られるように調整してください。



模様ぬい

右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。



右の図のようなときは、ネジを（－）に回します。

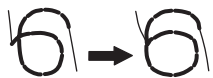


文字ぬい

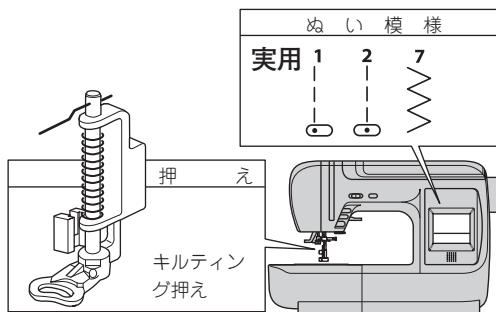
右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。



右の図のようなときは、ネジを（－）に回します。



キルティング押えのご案内 (別売り品)



キルティング押えを使うと、布を手で操作して、ぬう方向を自由に変えられるようにする曲線ぬいができます。
キルティング押えを使うときには、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■キルティング押えの取り付け方

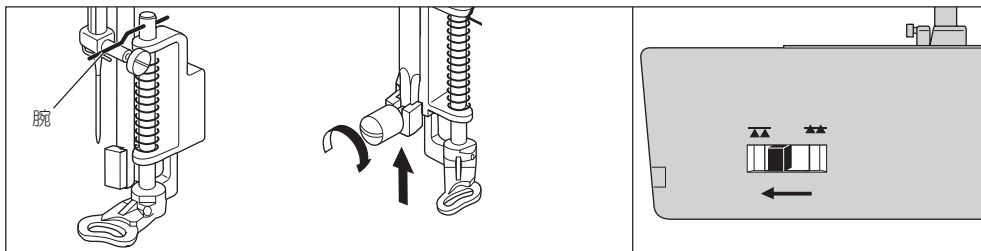


注意：ケガ防止のために；

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

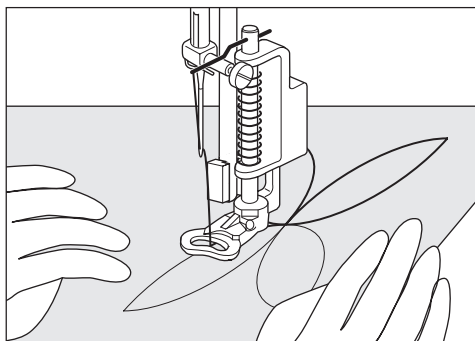


- ① 押えホルダーを取りはずします。
(18ページ参照)
- ② 押えの腕が、針止めの軸の上にくるように取り付け、押えのホルダー部を上を持ち上げながら、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。
- ③ ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。



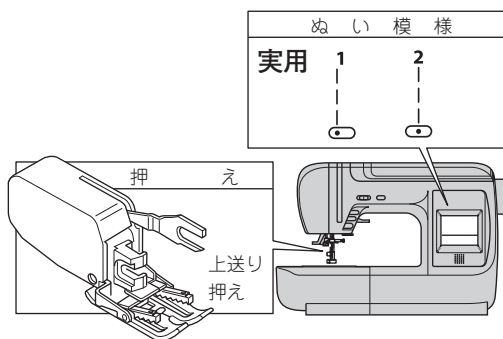
■ぬい方 (曲線ぬい)

- ① 布に模様を下書きします。
薄い紙に書いて、布にのせる方法もあります。(ぬい終わってから紙を取り除きます。)
- ② 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
押えは始めは浮いていますが、ぬい始めると針と一緒に上下に動き出します。
- ③ スピードをゆっくりにします。
- ④ 下絵にそって布を動かしてぬいます。
このとき手が針に触れないよう、十分注意してください。



● ぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して送り歯を上げておいてください。

上送り押えのご案内（別売り品）



くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に、上送り押えを使うと2枚の布地がずれることなく、きれいで均一なぬい目が得られます。

次のような布地にお使いください。

- 格子じまや、しま地
- ビニール、レザーや、つやのある布地
- パイル地、けば立った布地
- ベルベットやとくにすべりやすい化繊地
- 長いぬい合わせに…

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■上送り押えの取り付け方

⚠ 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

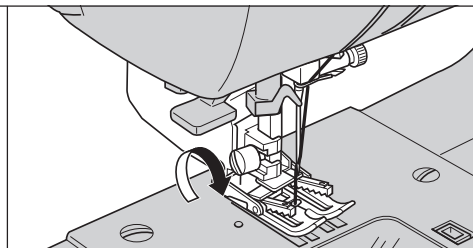
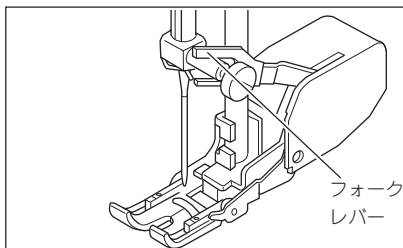
OFF

① 押えホルダーを取りはずします。

（18ページ参照）

② 上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかけます。

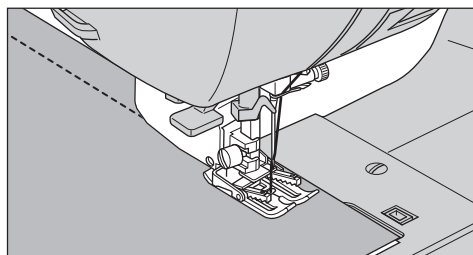
③ 押えのホルダー部を押え棒に後ろから取り付け、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。



■ぬい方

スピードをゆっくりにしてぬってください。

⚠ 注意：ケガ防止のために；
上送り押えは、必ず上記の模様だけにお使いください。



お知らせメッセージ

ミシンが正しくない状態でスタートしようとしたときや、間違った操作をしたときには、音声ガイドとともに案内窓にメッセージが表示されます。（音声ガイドのないメッセージもあります。）

メッセージ	原因	処置	ページ
押えを下げて下さい	押えを上げたままスタートさせようとしている	布地を入れ、押えを下げてぬってください	8
模様を選んで下さい	模様を選ばないでスタートしようとしている	模様を選んでください	10, 38
ボタンホールレバーをセットして下さい	ボタンホール、かん止めで、ボタンホールレバーを下げずにスタートしようとしている	ボタンホールレバーを下げます。	30, 32
これ以上記憶できません	記憶させた模様・文字が60個をこえてしまった	記憶させる模様・文字は60個以内にしてください	39
押えを上げて、セットしなおして下さい	ボタンホール、かん止めをぬい終わったのに、もう一度スタートさせようとしている	押えを上げ、ボタンホール押えをぬい始めの位置に正しくセットしてから押えを下げます	30, 32
返しぬいボタンをはなして下さい	返しぬいボタンを押したまま電源スイッチを入れた	返しぬいボタンをはなしてください	9
スタート・ストップボタンをはなして下さい	スタート・ストップボタンを押したまま電源スイッチを入れた	スタート・ストップボタンをはなしてください	8
針上下ボタンをはなして下さい	針上下・クイックスローボタンを押したまま電源スイッチを入れた	針上下・クイックスローボタンをはなしてください	9
糸切りボタンをはなして下さい	糸切りボタンを押したまま電源スイッチを入れた	糸切りボタンをはなしてください	9
フットコントローラーが接続されています	フットコントローラーが接続されているのに、スタート・ストップボタンを押した	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずしてください	7
フットコントローラーをはなして下さい	フットコントローラーのペダルを踏んだまま電源スイッチを入れたか、止めぬい、ボタンホールぬいをぬい終わったのにペダルを踏んでいる。	ペダルをはなしてください	7
電源を切って糸をかけなおして下さい。	糸切り装置のエラー（番手が30番以下の太い糸や、特殊な糸を使っている）	電源スイッチを切ってボビンを入れ直してください（30番以下の太い糸や、特殊な糸には糸切りボタンを使わないでください）	7
システムの異常です	コンピュータのエラー	電源スイッチを入れ直してください（それでも同じメッセージが出る場合は、修理・サービスをお申しつけください）	7

こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
	ボビンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	55
	針の取り付け方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	布地に対して糸が弱すぎる	布地と糸、針の関係を合わせます	19
下糸が切れる	ボビンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	ボビンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	55
	外がまにゴミがたまっている	掃除します	55
ぬい目かとぶ	針の取り付け方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	針が曲がっているか、先がつぶれている	針を取りかえます	19
	布地に対して糸と針が合っていない	布地と糸、針の関係を合わせます	19
ぬい目にしわがよる	糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
	ボビンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	針の先がつぶれている	針を取りかえます	19
ぬい目に輪ができる	ボビンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
模様がくずれる	模様に対して押えが合っていない バランスが合っていない	模様に合った押えを取りつけます バランス調整ネジで調整します	24～ 49
糸通しができない	針が上にながっていない	針上下ボタンで針を上上げます	9, 17
	針の取り付け方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	針が曲がっている	針を取りかえます	19
布地を送らない	ぬい目長さが布地に合っていない	ぬい目長さを調整します	11, 40
	送り歯が下がっている	ドロップフィードレバーを右にして、送り歯を上げます。	8
	送り歯にほこりがかたまっている	掃除します	55
針が折れる	布地を無理に引っ張っている	手は布地にそえるだけにします	20
	模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている）	模様に合った押えを取りつけます	24～
	針の取り付け方がまちがっているか、しめ方がゆるい	正しくつけ直します	19
	布に対して針が細すぎる	布地と糸、針の関係を合わせます	19
回転が重く音が高い	外がまや送り歯にゴミがたまっている	針板をはずして掃除します	55
ミシンが動かない ●お知らせランプ …緑に点灯 …赤く点灯 …赤く点灯	電源プラグの差し込みが不十分である	しっかり差し込みます	7
	電源スイッチが入っていない	スイッチを入れます	7
	フットコントローラーが取り付けである	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします	7
	糸巻き軸が右へ押されている	左へもどします	14
	押えが上がっている	押えを下げます	8
	ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーがきちんと下がっていない ボタンホール押えが取り付けられていない	きちんと下げます ボタンホール押えを取りつけます	30,32 30,32

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（60ページ参照）におたずねください。

ミシンのお手入れ

糸くずやほこりがたまると、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

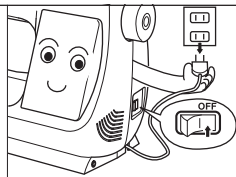
● お知らせ

このミシンのランプには、長寿命のLEDランプを使用しています。

もし、ランプが切れた場合には、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠ 警告；感電、ケガ防止のために；

お手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

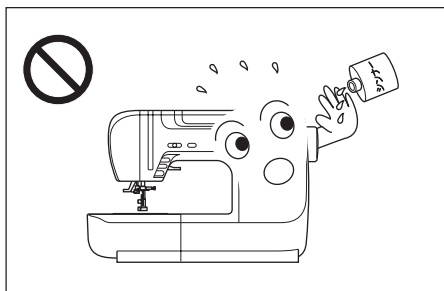


■ ミシン表面、ミシンカバーの掃除

やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。

案内窓は、きれいなかわいた布でかるくふいてください。

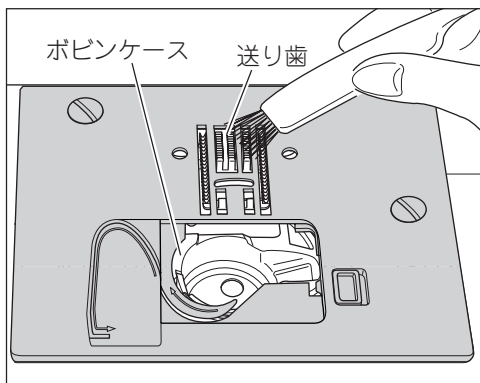
シンナーやベンジンなどでふかないでください。



■ 送り歯の掃除

ボビンカバーとボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

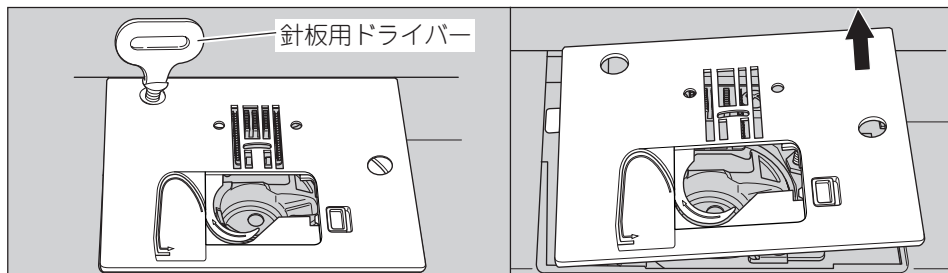
- 外がまやボビンケースには、油をささないでください。



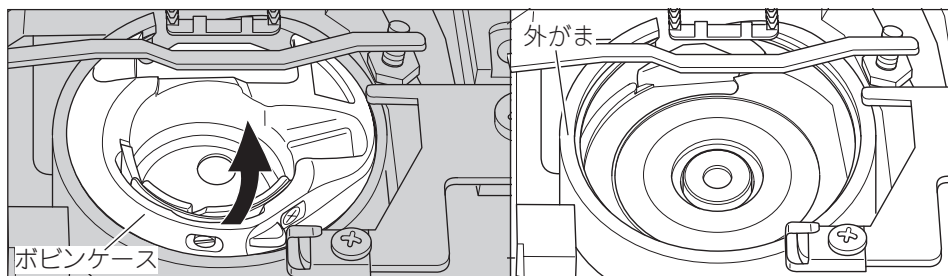
■ 外がまとボビンケースの掃除

定期的に針板を外して、中の外がまや送り歯を掃除してください。

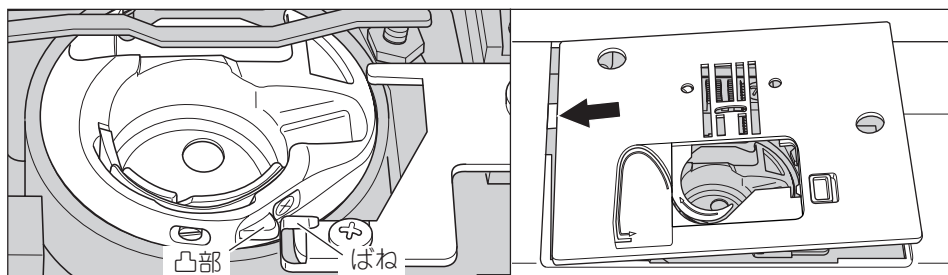
- 1 針と押えホルダーを取りはずします。
ボビンカバーとボビンを取りはずします。
針板止ネジ2本を外します。
- 2 針板の右側を持ち上げて、針板を取りはずします。



- 3 ボビンケースの手前を上を持ち上げて取り出します。
- 4 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボビンケースのよごれはかわいい布でかくるくふき取ります。



- 5 ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。
- 6 針板左側のツメをミシン本体に差し込んでから、針板止ネジを取り付けます。



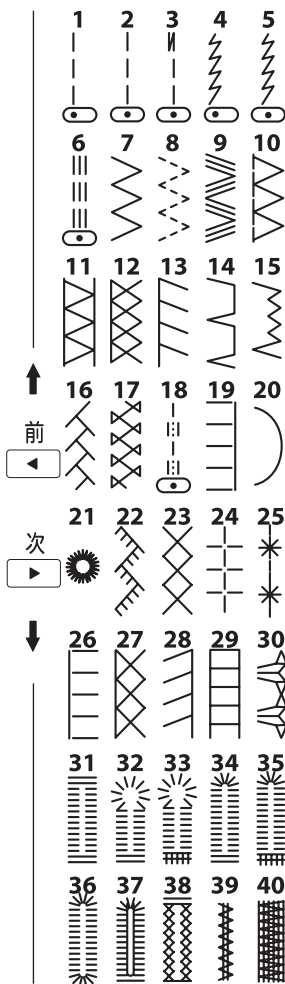
ぬい模様一覧

このミシンでぬえる模様の一覧です。

- 実用ぬいの選び方は10ページを参照してください。
- 模様・文字ぬいの選び方は38ページを参照してください。

実用ぬい

実用

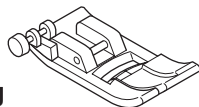


模様ぬい

模様
文字



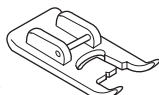
● 押えと記号



J

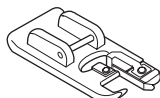
ジグザグ押え

(ミシンについています)



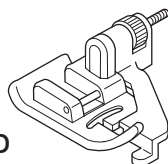
B

サテン押え



C

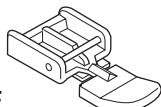
ふちかがり押え



D

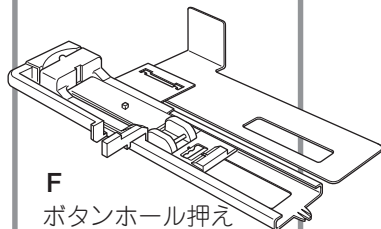
まつりぬい

(ブラインド) 押え



E

ファスナー押え



F

ボタンホール押え

(アンダープレート付)

模様ぬいの太線で表示された部分が、選んだときに記憶される1単位です。

模様45は、止めぬいです。模様の組み合わせの最後に記憶させると、自動停止ぬいになります。(43ページ参照)

文字ぬい
ひらがな

文字ぬい
カタカナ

文字ぬい
漢字

文字ぬい
アルファベット
ブロック体

模様文字 → あいう
あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ□.
らりるれろ
わをんゐゑ
つやゆよー
がぎぐげご
ざじずぜぞ
だちづでど
ばびぶべぼ
ぱぴぷぺぽ
0 1 2 3 4
5 6 7 8 9

模様文字 → アイウ
アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ□.
ラリルレロ
ワオンヱ
ツヤユヨー
ガギグゲゴ
ザジズゼゾ
ダチツデト
バビブベボ
パピプペポ
0 1 2 3 4
5 6 7 8 9

模様文字 → 漢字
保育園幼稚園
小中学校年
組才生日月
火水木金土
〇一二三四
五六七八九
十（）？！

模様文字 → ABC abc
A B C D E
F G H I J
K L M N O
P Q R S T
U V W X Y
Z □ . - ?
a b c d e
f g h i j
k l m n o
p q r s t
u v w x y
z & ! /
0 1 2 3 4
5 6 7 8 9

筆記体

模様文字 → ABC abc
A B C D E
F G H I J
K L M N O
P Q R S T
U V W X Y
Z □ . - ?
a b c d e
f g h i j
k l m n o
p q r s t
u v w x y
z & ! /
0 1 2 3 4
5 6 7 8 9

ひらがな、カタカナ、アルファベットの「□」は、1文字分あけるときに使います。（実際には、1針ぬい進むだけです。）
ぬい上がりの文字は、見本と少し異なることがあります。

ミシンの仕様

定格電圧	100 V
消費電力	45 W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ	白色LED
寸法	幅：439 mm × 高さ：287 mm × 奥行き：195 mm
重量	8.5 kg

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から3年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
- 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
- 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越しください。

株式会社 シンガーハッピージャパン 「お客様相談係」

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号

TEL. 03-3837-1862 FAX. 03-3837-0072

- * 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- * シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

●無料修理保証について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から3年間）内に故障した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 無料修理保証をお受けいただくときは、ミシンを購入店へご持参またはご相談ください。

●無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「使用の手びき」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災等、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入後の移動または輸送によって、不調、故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換え等をしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。

●有料修理について

1. 上記の 1.～10. に該当する場合、その他有料で修理をするときの費用は、別に定める必要部品代、出張費および技術料の合計額といたします。
2. 無料修理期間中にお客様のご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

●お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2. 「使用の手びき」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

SINGER®

シンガーミシン

ミ シ ン 保 証 書

機械本体がお客様の正常な使用状態で万一故障した場合は、裏面記載の内容で無料修理を保証します。

型 式	TC-700	機 械 番 号	HFC
*お買上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買上げ日より本体 3年
* お 客 様	ご 住 所	〒 TEL	
	フリガナ ご 芳 名	様	
* 販 売 店	住 所 店 名	〒 ⑩ TEL	

* 印欄に記入のない場合無効となります。必ず記入の有無をご確認ください。
もし、記入がない場合には、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。
本書は、再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

[保証責任者]

株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号

電話 03-3837-1865